# 逸對米宣言

## 戰爭の責任は

## ルーズベルトにあり！

獨逸研究所編

# 戰爭の責任はルーズベルトにあり

# 戰爭の責任はルーズヴェルトにあり

## 一九四一年十二月十一日國會に於けるヒトラー總統演說

獨逸國會議員諸君！

世界史的に多事なりし一年も近く終末を告げんとしてゐる最大の決定を見るべき一年も目前に迫つてゐる。此の重大な秋に當り余は獨逸國民の代表者たる國會議員諸君に次の如く告げんとするものである。然し更に全獨逸國民は前述の回顧と而して、現在將來下さねばならぬ決定に就き知悉すべきである。一九四〇年余の和平提案は再び當時の英首相並びに彼を支持し又は牽制する一味に依り拒絕されるに至つたが、其の後同年秋、今次戰爭こそは理性と必然の一切の理由に背いてまでも終局まで戰ひ拔かねばならぬことが明らかとなるに至つた。余の古き黨員諸君！諸君は余が終始中途半端や軟弱な決意を憎惡しつづけて來たことを御存知の筈である。

神の攝理が、ドイツ民族に本次戰爭を免れしめ得なかつたとするなら、余は今後五百年乃至一

千年に亘り單りドイツ歴史のみならず、ヨーロッパの歴史、否全世界の歴史までをも決定的に形作り兼ねない、史的鬪爭の指揮を余に委ねられたに對し神の攝理に感謝し度いと思ふ。

ドイツ國民とその將兵が現在勤勞し、鬪爭しつゝあるのは、彼ら自身やその時代のためのみではなく、併せて來るべき、否、先の先の世代のためでもあるわけである。造化はわれ〳〵に囑するに前古無比の歴史的修正を以てし、これが達成こそ今やわれ〳〵に課せられた責務なのである。

ノルウエー戰の終了後間もなく成立した西部における停戰によつてドイツ指導部は何よりもその獲得せる政治的、戰略的、經濟的に重要な地域を軍事的に確保するの餘儀なきに至つた。かくて當時占領された國々は、その時以來その抵抗力を一變した。キルケネスからスペイン國境に至るまで、極めて大規模な據點と要塞との連續となつたのである。或は無數の飛行場が建設され、或は最北部では部分的に花崗岩等の原始石が爆破された。又海軍のためには、海上からも空中からも事實上難攻不落の潜水艇基地が出來た。陣地を調べ、これを企畫し、構築することを必要とする一千五百以上の新しい砲臺が、防禦そのものゝ用を爲してゐる。

道路網、鐵道網が建設されたために、今日ではスペイン國境とペツアモとの連絡が、海上とは

無關係に確保されてゐる。海陸空軍の工兵隊及び建設大隊は、トツト部隊と提携して、西部城壁（いはゆるジーグフリード線）に比肩する施設を、こゝに築造した。而も尙毅然としてその擴大強化に寧日ないのである。このヨーロッパ戰線を、如何なる敵からも攻撃不可能たらしむることこれ余の斷乎たる決意である。昨冬中も繼續されたこの防禦的活動は、攻勢的作戰によつて補足された。これは季節的關係によつて可能だつたのである。ドイツの海上及び海中戰鬪力は、イギリス及びその任務に服する艦船に對して不斷の殲滅戰を續けた。ドイツの空軍は、偵察並びに攻擊任務について敵の艦船破壞を援助し、英本土に對する無數の報復爆擊によつて「魅惑的な戰爭」が如何なるものであるかを示した。この戰爭の張本人は、實に今日の英首相に外ならない筈である。この鬪爭に於ては、昨年の半ば、ドイツは殊に同盟國イタリーの援助を受けた。

英の國力の大部分は數ケ月に亘つて我盟邦イタリーの双肩に懸つた。英軍は僅にその重戰車の膨大なる優勢によつて北阿に一時的に危機を招來するのに成功したのであつた。しかるに今年三月二十四日には早くもロンメル將軍指揮下の少數の獨伊聯合軍が反擊を開始した。四月二日にはアゲダビアが陷落した。又四日にはベンガジに到達した。八日には我聯合軍はデルナに入城し、十一日にはトブルクを包圍し十二日にはバルデイアを占領した。ドイツ・アフリカ軍はその戰場

は氣候上からのみ見ても全然異り不慣であつたにも拘らず、愈々以て赫々たる[redacted]果を收めたのである、嘗てスペインに於てさうであつた如く、今度は北阿で獨伊兩國は同一の敵に對して協同して相向つて居るのである。

かくて北阿[redacted]線が我盟邦兩國が獨伊兵士の血に依つて再び確保されて居る間に、怖るべき不吉の影が既に歐洲を覆ふて居た。余は一九三九年秋に緊急止むを得ざる必要に迫られて、少くとも獨ソ間の焦眉の不和を取り除いて全面的平和の基礎を作らうと決心するに至つた。之はドイツ國民全體、特に、ナチス黨のボルシエヴイズムに對する立場が全然反對である爲、精神的には甚だ苦痛ではあつたが、英國が至る所で我ドイツの脅威を受けて居ると聲明し且つ援助條約とても常に事實上は經濟的利益のみの立場から考へられ、それのみを目的として居た手前客觀的には樂なものであつた。

ドイツ國會議員諸君！

余は一九三九年初夏及び盛夏を通じ又もや多數の國々に對して、英國がドイツは之等諸國に侵入し自由を掠奪するの意圖を有してゐると主張しつつ、援助を申出たことを回想して頂きたい。

ドイツ國及びその政府は、これが決して事實に相應せざる屈服のみを意味することを確然と知

つたのであつた。

加之、英外交によつてドイツ國民に早晩强制さるゝに至るべき戰爭の場合非常なる犧牲を以てせざる限り遂行し得ざる二面作戰になると云ふ單純な事實が軍事的に見て認識されるわけである。それにしてもバルト諸國及びルーマニアが英側提案に係はる援助同盟の採決に傾き、從つて上記諸國交此の種脅威を認むるに至つた手前、ドイツとしてはドイツ側權益の限界を決定すべきことこそ、當然の權利、否義務でさへあつた。バルチック諸國、ルーマニア共他の諸國が英國援助條約採決に傾き、以つて彼等諸國も前述の如き脅威を信じたる以上、ドイツの利害關係の限界を決定することは、ドイツ政府にとり、權利であるのみならず、義務でもあつた。

以上の諸國は日ならずして——ドイツ國より見るも遺憾乍ら——脅威を受けつゝある東部に對する最も强力なる保證たり得る唯一の要素はドイツ國以外にない認識せざるを得なかつた。上記諸國が滅亡したそもそもは、自國の政策を固執しつゝドイツとの連絡を斷ち英國傳統の自己主義から援助はおろか絕えず援助を求められて來た結果に他ならない、

それにも拘らず之等諸國の運命はドイツに最も强き共感を與へた。フインランド冬季戰は、吾人に苦澁と驚嘆の交錯せる感情を强いた。卽ち吾人自身軍國國民として英雄的行爲と犧牲には、

感じ易き心を持つが故の驚嘆であり、吾人が、西部に於ける脅威的敵と東部に於ける危險を見乍ら、軍事的に援助し得なかつたが故の苦澁である。而して、ソ聯がドイツの政治的勢力範圍の限定から、外部に住む諸國家を實際的に撲滅せしむる權利を引出すことが明瞭となるや、其後の情勢は、理性と感情が敵對的に對立する目的追求に墮して了つた。

時日の經過と共に、一九四〇年には早くも、クレムリン内の男共の計畫は世界支配、卽ちヨーロッパ破壞を意識的に目論んでゐた事が認識された。余はドイツがソ聯國境地方に僅少の陸軍を配備せるに止めてゐた當時余は早くも旣に東部に於けるソ聯の軍事行動の槪貌を見て取つた。

これと時を同じうしてチャーチル氏は近く英側戰術を轉換すべきことを約束した。然るに今となつて、彼は一九四〇年下院秘密會の席上、ソ聯の參戰を以て戰爭を有利に繼續し終結に導くための重要因子なりと述べた事實を否定せんと試みて、ソ聯は一九四一年には參戰し、英國をも攻勢に轉移せしむるであらうと說いてゐる。

かくてヨーロッパは暗雲に閉されるに至つた。ヨーロッパの境界はウラルではない。凡そ境界線とは國民的、文化的のそれ以外にはない。これ卽ち東部の生活を西部の生活から遮斷する境界線より他にはない所以である。――總統はこゝで、ヨーロッパの文化的發達を回顧しつゝ、嘗て

は東方の遠隔な荒地から文化の低い牧民の恐るべき激流がヨーロッパ大陸の中樞部へと堰を切つたのであると說き、なほ古代ギリシヤとローマの歐洲大陸に對する意義を指摘しその文化的業績の上に西歐を建設したことを明らかにした。即ち數世紀に亘つてその守護はローマ人の問題であつたのみでなくまたゲルマン民族の問題でもあつたのだ。この歐洲から他の大陸への入植が始つたのみでなくまた何人も否定し得ない精神的、文化的滲透も行はれた。今日獨逸は自國のためのみに最早闘つてゐるのでなくまた全大陸のために闘つてゐるのである。これに對して總統はこの事實が歐洲國民にすでに明らかになつたこともまた歐洲國民がこの闘ひに公然と參加するか、或は義勇軍を送るかしてゐることは慶賀すべき表れであると强調した。エーゴースラヴィア及びギリシヤに對する進擊はこの偉大なる戰闘の序幕であり、それは尙繼續されてゐるのだ。英國がベルグラードの暴動に主要な役割を演じたにも拘らず、その主たる責任を有するものはソ聯であつた。總統は更に語を繼いで「余がモロトフの伯林訪問に際し看取したことは、スターリンが遠廻しにこの暴動を我々の意志に反して達成し得ると信じてゐたことであつた」と語り、更に獨逸の東部に於ける對抗措置について指摘した。

ドイツ國にとつての一大危險が東部方面に簇り始めたことが余の口に明かとなるや否や、余は

直ちに多數の新たなる機械化師團及び戰車師團の創設を命じたが、そのための人的及び物的資源は我々のところに豐富に存在してゐたのである。余がドイツ國民に向つて保證し得る一事は、民主主義諸國にあつては軍備について語られるところの寧ろ多きに對して、ナチス・ドイツの方では尙も引續いて一層多くの仕事が進められるであらうといふことである。この事は過去に於てもさうであつたが、今日に至るも依然その點には何等の變化も見られない。一旦緩急あらばいつ何時たりとも我々はより多くの武器及び就中より優秀なる武器を以て立ち現はれるであらう。民主主義側各紙の記者が今日、余にして若しボルシエヴイキの兵力をもつとよく知つてゐたならば彼等を攻撃することを考へ直したかも知れぬなどと言つてゐるとすれば、余は彼等に向つて言はねばならない。彼等は全情勢をも又余自身をも全く誤解してゐるのだ、と。總統は更に語を繼いで總統自身は戰爭を欲してゐなかつたばかりか、寧ろそれを避けんがために凡ゆる手段を盡したのだ。然りと雖も、若しも總統にして戰爭の到底避け難いことを認めた後までも、唯一の可能なる結論に到達しなかつたとしたならば、自己の義務を怠せにし且つ恥づべき所業に出づることゝなつたであらう、と述べた。「余はソ聯に於て、啻にドイツ國に對してのみならず全歐洲に對する極めて致命的な危險を看取したるが故に、敵側よりも一日二日早目に攻撃命令を下すことを決意し

たのである。ロシア側に攻撃意圖のあつた事實を證する確實な、證據は今日壓倒的に夥しく存在してゐる。」その危險の大きかつたことを思ふ時總統は、絕對に爲さゞるを得なかつたことを爲すべき決意をするための力を神が適切な時機に與へられたことにつき、たゞ神に感謝する他はない、と語つた。若しも、二萬臺以上の戰車と、數百師團の軍隊と、數萬に上る大砲及び飛行機とが、突如としてドイツ國に對して行動を起したとすれば、既にヨーロッパは失はれてしまつてゐたかも知れない。次いで總統は、六月二十一日の早朝に始まつて以來クリミア半島の攻略及びケルチの占領に至るまでのドイツの對ソ戰に於ける大戰果について經過報告を行ひ、十二月一日現在に於ける捕虜總數三、八〇六、八六五名、破壞乃至鹵獲されたる戰車數二一、三九一臺、擊破されたる飛行機數一七、三二二機に及ぶことを明かにした。而して同じ期間に英機の擊墜された數は二、一九一機であつた。

六月二十二日から十二月一日に至る期間にドイツ陸軍の蒙つた損害は戰死一五八、七七三、戰傷者五六三、〇八二、行方不明三一、一九一である。その間ドイツ空軍の戰死者は三、二三一、負傷者は八、四五三、行方不明二、〇二八、海軍の方は戰死三一〇、負傷者二三二、行方不明一五〇名であつた。

從つてドイツ軍の受けた總損害は。戰死一六二、三一四、負傷五七一、七六七、行方不明三三三六九になる。ヒトラー總統はこれにつき東部戰線に於ける戰死者、戰傷者數が、前世界大戰のソンム會戰の二倍餘りであり、行方不明者數が該會戰の場合の半數にも達しなかつた點を强調し續いて攻勢が冬の間だけ中止され、夏季に入れば又繼續されるだらうと指摘した。更に總統は「何よりも戰爭の責任を負ふべき男、諸國民が雪と氷の中に鬪ひつゝあるにも拘らず爐邊で氣の利いた演說ばかりしてゐる男」に言及した。

總統は再びポーランド廻廊及びダンチッヒの問題を解決する爲のドイツの努力を回顧し一九三九年八月に爲したこれ以上誠實にして襟度はあり得ないドイツの提案を繰返し且つ「如何にしてポーランドの如き國家がかゝる提案を簡單に無視する事が出來更にドイツ少數民族に對し殘虐を爲し、加ふるに總動員を命令する事が出來たか」を問ふた。この問題に對する事情はワルシヤウの外務省に於て發見された公文書によつて知る事が出來た。ポーランドがその否定的態度を固執し凡ゆる和解の可能性を否定した主要なる責任を有するものはワシントンの前ポーランド公使ポトキ伯であつた。「彼のワルシヤウ政府へ送つた報告はたゞ一人の人間が如何なる範圍まで今次世界戰爭に對し責任を負ふてゐるかを怖しいまでに明らかに表はしてゐる文書である。總統は如

何なる理由からこの人物がかゝる狂的な敵性を、その歴史に於てアメリカにも、又ルーズヴェルトにも未だ嘗つて不法を與へたこともない國に加へ得るかの間に對する解答を明らかにした。即ち一、ドイツは南北アメリカに如何なる關心をも決して有せず、たゞこれらの國に對して移民を通じてのみ利益を享受する恐らく唯一の大國である。

二、西洋の全歷史及びアメリカの發展に於てドイツは決して敵性態度を取らず寧ろ多くのドイツ人壯丁の血によつてアメリカ半部の防衞を援助したのである。

三、ドイツ國は今まで一度として合衆國を相手とする戰爭に參加したことはなく、寧ろ一九一七年にはルーズヴェルト大統領自身によつて任命された委員會のため逐一闡明しつくされた理由に據り合衆國から攻擊されたことさへあるのだ。

かうした調査委員會からしてが、合衆國の前大戰への參戰動機が若干の資本主義的小團體にあつたのであつて、ドイツ自身は何ら合衆國と事を構へる積りはなかつた旨を端的に認めたのであつた。卽ち合衆國の權益又は況して存亡に關するが如き意見の相異は領土的にも、政治的にも合衆國とドイツ民族の間には何ら介在してはゐないのだ。國體の相違は常に存在してゐた。

しかし國際法の立場からすれば、ある一國が自國の限界を乘越え、他國の事柄に干涉しようと

しない限り、この國は何も敵性を示す理由にはなり得ないものである。アメリカは大きな獨裁的委任權を持つた大統領に率ゐられてゐる一共和國である。そしてドイツは君主國であつたが、その後共和國となり、今日では權威國家たる共和國である。兩國の間には深い大洋が横はつてゐる。資本主義のアメリカとボルシエヴイキのロシヤとの相異は、大統領の統率する合衆國と總統の指導するドイツとの間に横はる差異よりも遙かに大きい筈である。

しかし合衆國とドイツとの間に生じた二つの紛爭は、ウツドロウ・ウイルソンとフランクリンルーズヴエルトなる二人の男のしでかした仕事に外ならない。ウイルソンについては、歴史の批判が下されたものと見て差支がなからう。ドイツの國民は、この男に對する信用をその政治的、經濟的存在の破綻を以て支拂はなければならなかつた。「かくの如き辛い經驗があるにも拘らず、合衆國の大統領は何故に又もや、戰爭を使嗾し、特にドイツに對する敵性を激化し、戰爭の勃發を不可避とすることを以てその使命とすることが出來るのであらうか?」

この質問に答へて總統は先づ人的方面から大統領及び彼自身との見解と態度には雲泥の開きがある事は餘りにも能く了解し得ると述べた。ルーズヴエルトは甚だ富裕な家族の出で民主主義に於ける成功及び經歴が生れ乍らにして具備してゐる人間の階級に屬してゐる。然し余自身は小さ

い貧困な家に生れ自からの道を多數の困難と遭遇し乍らも切り拓いて行かなければならなかつた。ルーズヴェルトは第一次世界大戰を戰時成金の觀點から體驗したのであつた。彼は夫れであるから民族及び國際間の紛爭は他の人々が血を流してゐるにも拘らず大儲けをする爲に與へられた機會として極めてぼろい結果としてのみ知つてゐるのである。同時期に於てヒトラーは一兵卒として戰線に於てその義務を履行し、又從來と同樣、貧乏なまゝ戰爭から凱旋したのである。ルーズヴェルトが經驗上の經驗を有し政治上又幸運なる政治家として世に出でた間にヒトラーは無名の士として國民勃興の爲に鬪つたのであつた。フランクリン・ルーズヴェルトが始めて米國大統領として選擧せられた時には彼は實に完全な資本主義政黨の候補者であつた。總統がドイツ國宰相となつた時に、彼は彼自身の創始した一民族運動の指導者であつた。次いで總統は合衆國とドイツとに於ける社會的發展を敍述した。この兩國に於て夫々適用された大原理の當否に對する簡單明瞭な證明として、總統は次に、ナチス指導下のドイツに於ける經濟、藝術及び文化の逞しき成長を指摘する傍ら、時を同じくしてルーズヴェルト大統領の方はその國の內債を前代未聞の遣り方で增嵩せしめ、業界の根柢を奪ひ去り、その結果として絕えず失業を增大せしめたに過ぎない點を擧げた。ドイツでは投機を彈壓してゐたのに對して合衆國ではルーズヴェルトの統治下

に投機の新しい繁榮時代を來したといふ有樣である。この男の所謂ニユー・デイール立法は誤りであつたばかりか前例を見ざる程の大失敗であつた。かゝる經濟政策を繼續することは、彼の如何なる口先上手を以てしても、平時ならば早晩大統領としての彼の失脚を來す筈のものであつたといふことに就ては、何等の疑ひも存在し得ない。若しもこれがヨーロッパの諸國で行はれたのであつたら、ルーズヴエルトは國帑を蕩盡した廉で國法に問はれるに至り、そのためにその政治的生涯を終るか、乃至普通の裁判所であつたら業務上背任の廉で少くとも禁錮刑位は到底免れ得ないところであらう。總統は更に續けた、「ところが一團の雨雲がこの男の頭上に集つて來た。そこで彼は、公衆の注意を彼自身の行つてゐる對內政策から對外政策の方へ逸らすことよつてのみ辛じて助かることが出來るといふことを感じたのである」と。

右に關聯して總統はボトツキが演じてゐた役割に就て述べた。卽ちボトツキの報告はルーズヴエルトが彼の經濟的妄想の崩壞に就ては充分知りながら、金輪際何か世界の視聽を集めるやうな外交的出來事を必要としてゐたことを曝露したものであつた。「此の男は何年となく、世界の何處かで合衆國がその何れの側かに與すると聲明し戰ひが勃發するであらうといふ希望を後生大事に育んで來た。」かう述べ終つた總統は次いでルーズヴエルトが此の意味でドイツ國に對して企て

たルーズヴルトの行動に言及するところあつた。即ち總統は、一九三七年からは例の宣傳演説が始まつて、これがやがてアメリカ國民をドイツに對して使嗾する手筈となつてゐた。

かうした行動はやがて駐獨米大使の召還となつた。かくて我々の平和政策は臺無しにされて了つた。ルーズヴエルト大統領は何時も平和に關心を有するものでありと主張しながら、その辯經濟的諒解を努めんとする一切の國家を脅迫かでなければ借款引揚を以て脅かしつゞけて來た。

此の煽動宣傳は一九三九年に至り、更に激化を見るに至りこれと共にルーズヴエルトは戰爭以外の有りと凡ゆる手段を竭して全體國家群に反した工作を行つて來た。

モンロー主義を引合ひに出してをきながら彼ルーズヴエルトは一九三九年三月にはアメリカに全く關係のなかつた諸事件に容喙するに至つた。即ち彼は國際法に全く違背して、最早久しきに亘つて存在せざる諸國家の公使館を維持し、諸政府を樹立し、それどころか彼は他國の領土を占領するが如き權利を與へた諸政府との間に條約までも締結する事を要求し來つたのである。總統はまた、ルーズヴエルトが一九三九年四月十五日に總統及びムツソリーニ首相に宛て丶種々の國國との間に、ルーズヴエルトの同盟國に合併されてゐたか又はその保護領と化してゐたが故に自主的決定をなし得なかつた如き諸國との間にまでも不可侵條約を締結するやうにと言つて來た彼

のアツピールにも言及した。續いて中立法の變期、ポーランド亡命政府の承認ノルウエー及びデンマークの資產凍結及び一九四〇年五月に於けるノルウエー亡命政府の承認、オランダ及びベルギー亡命政府の承認並びにこれら國々の資產凍結等に關しても述べられた。これに關聯して總統はフランスが若しもその對獨戰を繼續するならば同國に對する援助を倍化しようといふ。ルーズヴエルトのフランスに對して與へた保證について想起することを求めた。

一九四〇年七月にアメリカはドイツの手に落ちることを阻止するといふ口實の下にフランスの資產を凍結したが實際はカサブランカのフランスの金を米國驅逐艦に積載し米國に運ぶためであつた。米國を參戰街道に驅りたてるためにルーズヴエルトの措置が尖銳化したことは米國市民が外國空軍に參加し、或はまた米國が脅威を受けてゐるといふことを證明しようとして危機を捏造したことによつても理解される。

總統は更に米驅逐艦を英艦隊に讓渡したこと、及び「武器貸與法」ドイツ汽船「アラウタ」號拿捕に際しての米海軍の協力、米船舶に對し紅海航行の許可、西亞の英軍に武器を補給したこと、最後に米官憲による獨船凡てを押收したことを指摘した。

總統はルーズヴエルトがバルカン諸國に派遣したドノヴアン大佐の役割、六月に於けるドイツ

資産の凍結、獨領事官憲の追放、獨通信社「トランスオツエアン」及びその他米國内の獨逸機關の閉鎖及びルーヴエルトが氷島占領によつてドイツに戰爭を強い。同時に一九一六―一七年の如く獨潜水艦作戰の效力を失はしめることを望んだのを述べた。

同時にソ聯に對するアメリカの援助が約束され、九月にはドイツの船舶に對する發砲命令が發せられた。「余はルーズヴエルト大統領が余自身に對して示した卑劣なる攻擊を默し得ないであらう。余を目してギヤングと稱した事實を度外視しても、余はこの言葉がアメリカから來たものであり、ヨーロツパにはその例は見當らないといふことを指摘してをきたい。余は又ルーヴエルト氏からも何一つ期待することを得ない。何故なら余をして云はしむれば、氏はウツドロウ・ウイルソンと同樣に精神に異狀を來してゐるものだからである。この男とそのユダヤ的隨伴者たちとが、同樣の遣方で長年日本に挑戰してゐたことについては、今更贅言を要しない。彼は日本に對しても、全く同樣の方法を執つた。彼は先づ戰爭を使嗾し、戰爭の理由を捏造し、キリスト教的僞善の蔭にかくれ、最後には國民を戰爭に引入れるのである。そして自巳の行動の理由を證明せしめるために、フリーメーソンの神助を乞ふたわけである。

余は歴史に於てかつて存在したことのなかつたこの厚顔鐵面皮に對して遂に一國が起ち上つた

こと、また現在奇襲され或は悲しむ何らの權利を持たない人物の願ひ通りの方法で答へたことに諸君の凡ては重荷を下ろしたと信ずる。我々ドイツ國民及び全世界の正義の國民凡ては日本政府がこの欺瞞者と長い交渉の後に遂に之以上かゝる取扱に甘んずるのを拒否したのに大いなる滿足を感ずると余は信ずる。我々はルーズヴェルトの背後にある力を知つてゐる。それは彼がソ聯に爲した如くに我々をも取扱はんとするために好機來れりと信じた永遠のユダヤ人である。昔日のドイツと同一に談じ得ない現在のドイツが、永年ルーズヴェルトこそ達成を目論んでゐたことを企てた理由は實にドイツが日本と同盟を結んだと云ふことだけでなく、寧ろドイツと日本とが歐洲諸國の生存をこの歴史的出發點の上に基礎づけることを理解するための充分なる洞察と力とを有するが故に他ならないのである。

民主主義諸國は戰爭に云ひ掛りをつける代りに、極めて困窮のうちにある自國民を救ふことの方がよからう。

合衆國大統領はその戰爭擴大政策を繼續しつつ、遂ひに、一切の國際法を無視して、獨伊の國籍を有する艦船に對しては何處でゞも即時發砲すべしとの命令を、同國の海軍に下すところまで進んで行つたのである。獨伊の商船にして米國巡洋艦の攻擊を受け、且つその非武裝乘組員たち

にして捕虜とされた者も少なからずある、ルーズヴエルト大統領は、一九四三年までには、獨伊兩國を軍事的手段によつて攻撃し得るところまで進んでゐたいと望んでゐた。この米國大統領のかゝる戰特政策に當面しては我々の忍耐も遂ひにその限度に達して、獨伊兩國は今や三國同盟を適用することにより、日本の側に立つて對米戰を開始するに決したのである。それ故に日獨伊三國は、今日ベルリンに於て調印せられたる次の協定を締結した次第である。即ち、

第一條　日本國、ドイツ國及びイタリア國はアメリカ合衆國及び英國により强制せられたる戰爭をその執り得る一切の强力手段を以て勝利に終るまで遂行すべし。

第二條　日本國、ドイツ國及びイタリア國は相互の完全なる諒解によるに非ざればアメリカ合衆國及び英國の何れとも休戰又は講和をなさゞる可き事を約す。

第三條　日本國、ドイツ國及びイタリア國は戰爭を勝利を以て終結したる後に於ても亦千九百四十年九月二十七日その締結したる三國條約の意義に於ける公正なる新秩序招來の爲最も密接に協力すべし。

第四條、本協定は署名と同時に實施せらるべく且つ千九百四十年九月二十七日の三國條約と同一期間有效たるべし。締結國は右有效期間の滿了前適當なる時期に於て爾後に於ける本協定第三

條に規定せられたる協力の態樣に付き了解を遂ぐべし。

最後にヒトラー總統は一九四〇年七月に於ける最後の講和提案が拒否されるやドイツ人のすべてはこの戰爭が最後まで戰ひ拔かれなければならないと云ふ事を明らかに知つてゐた旨を强調した。

總統は又國會議員に對し一九三九年九月一日に行つた彼の演說に於て今回の戰爭ではドイツは武力に依つても亦長期戰に於ても決して敗北を喫し得ないと保證したのを思ひ起さしめて次の如く述べた。

「余は余の敵に對して、時は勿論武力と雖も我々を屈服し得るものではなく、又國內の紛爭といふが如きものも我々の義務の履行を妨げ得ないことを確言出來る。我々が政權獲得の鬪爭に於て、假借するところなく峻烈であつたと同樣に我々は又我國民の生存戰に於ても假借するところなく峻烈な態度を採るであらう。幾千もの國民中の精銳たる父親及び息子たちが戰場の華と散つてゐる時、銃後に於て犧牲を甘受する心掛けを有たぬ人間たちには生存權は無いのである。ドイツの戰線を阻害し、我國民の抗戰力を切り崩し、又政府の權威を弱め乃至は銃後の國防力破壞を企てんとする如き者は假令如何なる方法で行つてもその何人たるを問はず、悉く死刑を以て處罰

されるであらう。死は一なりと雖も、兵士が前線に於て名譽の戰死を遂ぐるに反してこれらの徒輩はたゞ不名譽極まる死を遂ぐるといふ點に於て異つてゐる。我々の敵は我々を決してごまかす事は出來ないのである。二千年來の我々の歴史に於て我國民が今日程確固安全たる事は未だ曾てなかつたのである。我等が在天の主たる神こそは、過去數ケ年間に於てかくも偉大なる事業を我々に惠ませ給つたのである。それを思ふ時我々は、我々を斯くも偉大る民族の一員たらしめ給うた攝理に對して恭々しく額く他はないのである。我々も亦我々以前及び我々以後のドイツ國民の前に、我々の名を不滅のドイツ史上に止め得た事を、上天の神に感謝するものである。」

ゲーリング國家元帥は、滿堂の喝采の内に、ドイツ國會議員及び全ドイツ國民の名に於て、勝利の保證者たる總統に感謝の辭を述べ、ドイツ軍及び國民の信頼と變らざる忠誠とを誓つた。かくしてこの記憶すべきドイツ國議會は、國歌齊唱裡に終了を告げたのである。

# 一九四一年十一月八日ミユンヘン・ナチス黨蹶起記念式席上のヒトラー總統演説

黨員諸君！　獨逸國民諸君！

余が前回當地で諸君に相見えた時は既に數々の大勝に飾られた光榮ある一年を過してゐたのであつた。余は平和的手段に依り緊要な改訂を遂行せんと一九三九年最後的努力を拂つたが此の努力も亦歐洲を戰禍に捲き込まんとする國際民主主義的戰爭煽動者の奸計に依り遂に畫餠に歸した後は我々に課せられた最初の使命は東方の一の敵を克服するにあつた。然もこの使命は十八日間で完遂されたのである。元來彼等の如き全然とは云はぬまでも精神喪失者は獨逸國を再び敗北せしめんとする復讐心を數週間後には既に放棄すべきであつたのである。彼等の工作は全然見込みがなかつた。然し乍ら彼等は之れを放棄しなかつたばかりではない。否寧ろ反對に余が當時彼等に差延べた平和の手さへにべなく突き返したのである。之れが爲余個人を罵倒し剩へ卑怯者と呼んだ。斯くなつた以上余は一九四〇年西方の獨逸の敵を徹底的に征服する決意を抱く以外に道が

なかつたのである。我々は敵國側の不注意及び饒舌のお蔭で彼等が對芬援助と云ふ口實で諸威に——實は瑞典の鑛山鐵道及び鑛山に——奇襲を敢行せんと計畫してゐるのを知つたのである。彼等は既に當時我々及び余の決意を豫期してゐなかつたのである。彼等は實に余の人物をかの亡命者連に表現せしめたのであるが此の亡命者たるや余の爲にこそ獨逸を去らねばならなかつた者である。（喝采）其後間もなく獨逸は西部の敵を征服し英國をしてかの所謂「名譽ある」退却に餘儀なくせしめた前古未曾有の大勝を博したのである。此の英國の退却は彼等の主張に依ると英國の戰史を永久に飾るであらうと稱してゐる。余は英國の此の「名譽ある」作戰の痕跡を親しく視察し得たが此の戰跡たるや亂雜極りなきものに見えた。（熱狂的喝采）

余はそこで今一度然も之が最後なる旨を强調して、英國に和平交渉の手を差出し且つ之れ以上戰爭を繼續する事は英國に取つて無意義であり、理性ある平和締結の邪魔になるものは一つもなく且つ英獨兩國間には只人工的に作り上げられたもの以外には何等利害の對立がないことを指摘したのであつた。

數年來英國を支配する精神錯亂者は（嵐の如き大喝采）早速之を又もや余の新しき弱點だと見做したのであつた。然も余を將來に疑を懷き之れ以上戰ひを繼續する決心がつかぬ男と想像した

のである。余は實際に於ては將來を過去の發展過程の繼續であると觀てゐたのである。余は然し乍ら赫々たる將來と共に又これが犧牲を豫見したので凡ゆる方面に於てこの犧牲を最少にせんと欲したのである。

先づ第一に余は自國民の犧牲を最少にせんとしたのであるが又同時に余は勝利者として宥和的手を差し延べる責任を世界に對し負ひ得ると考へてゐたのである。然し乍らこれは自からその生命を犧牲とした事なく且つ自國民の犧牲と何等密接な關係なき人物に依つては前述の如く理解されなかつたのである。

事茲に至つては今や兇の緒を固く締め我々卽ち獨逸國のみならず全歐羅巴を脅威する危險から永久に吾人を解放する道に踏み出すの外なかつたのである。

余がこの前此處で諸君に呼び掛けた時に古き黨員諸君は余が從來殆ど何人も話し得なかつた勝利の絕對的確信を有するものと考へたであらう。然し乍ら當時に於て余は多大の憂慮を胸に藏してゐた。何故かと云ふにこの戰爭の背後には從來常に國家間の交涉を利用して生活してゐる最後の放火犯人、卽ち國際的猶太人が居ると云ふ事がはつきり判つてゐたからである。

余は之等の猶太人を世界の放火犯として知り得たのである。卽ち彼等が數年間新聞、ラヂオ、

映畫、演劇等の迂路を通じ徐々に各國民を毒したのは一般の能く知つてゐる處である。又この害毒が遠く波及した事又彼等の財政及び金融取引が之等目的の爲如何に利用されなければならなかつたかと云ふ事も周知の事實である。

然も單に軍需工業株主に過ぎない某英國人は開戰後數日ならずして次の如く公言したのである。「今次の戰爭は少く共三年間續かなければならない。三年經たない内に戰爭は終らないであらうし又止める事は出來ない。」と。我々は斯くの如き危險が推進力である事を曾て我國內の戰爭に於て知り得たのである。然も今やこの敵は國外から從來と同樣に我々に敵對しやうとしてゐる。彼こそは實に獨逸國民及び獨逸國に對する世界聯合の鼓吹者である。

彼こそは曾て波瀾をして前線に立たしめ、又次いで佛國、白耳義、和蘭及び諾威を自己に奉仕せしめんと强要したものである。これに關しては英國は始めからこれが推進力であつたのである。然し此の猶太精神の最も明瞭な支配者を有する國も亦他日獨逸に反抗するであらうといふ事は解り切つた事であつた。この國こそ卽ち猶太主義の最大な從僕たるソ聯である。時は遂に我々國家社會黨員が數年間に亘り主張し來つた處を確認した。換言すればソ聯は實にその國內のインテリを全部毆殺し只精神力なき暴力に依つて無產化された動物のみが殘存しその上に猶太執政者

――實は奴隷賣買者――の尨大なる組織が構成されてゐる國家なのである。

此の國内に於ても或は國粹的傾向が勝利を得るのではないかとさへ屢々疑はれたのである。然し乍らこういふ疑を抱くのは自覺せる國家主義觀の支持者がこの國には最早存在しないといふ事及び一時はこの國の主人となつた者も結局はこの萬能的猶太主義の手に踊る樂器に過ぎないといふ事を全く忘れた爲である。更にスターリンは揚幕の前の舞臺に現はれてゐても彼の背後には何時もカガノウイツチユや凡ての猶太人が立つてゐてこの尨大な國家を凡ゆる枝葉に亘つて支配してゐる事實を失念してゐるからである。

昨年當時余が當地で諸君に語つた時は既に一の見透しが余の氣持を沈欝ならしめ、最早疑ふ餘地なき或る事態の發展を豫感せしめた。我々が西部戰線に於ける進擊を遂行しつゝあつた丁度其の時ソ聯は既に東部に於ける進擊を開始してゐた。我方では東プロシヤに僅かに三箇師團しか置いてゐなかつたのにソ聯はバルチック方面に二十二箇師團を動員してゐたといふ如き時機が到來した。而して斯かる事態は月を逐うて强化さるゝに至つた。之と關聯して獨逸の東部國境に於て尨大な防禦工事が行はれたものであつてこの事業も亦看過し難いものである。數ケ月ならずして優に九百の飛行場建設工事が起され且つ部分的には完成を見た。如何なる目的でかくも尨大な、

一切の想像を絶する程のソ聯空軍の結集が行はれたかは容易に推測され得た事である。二年前迄は一農村に過ぎなかつた處に此の頃では今や六萬五千人もの勞働者を使用する多數軍需工場が設立されたのである。粘土造りの民衆の前に工場の敷地やゲーペーウーの役所が設けられた。表から見ると宏壯な邸宅が、裏側は殘虐極まりない拷問の爲の拘禁所となつてゐた。之と併行して獨逸國境への軍隊の移動が開始されたが此れは露西亞本國からのみならず、この尨大な國家の遙か彼方の極東から移動したものである。師團に次ぐに師團を以てして、遂ひにその數は百師團となり、百二十となり、やがて百四十、百七十となり、更にそれを超えるに至つた。

かゝる沈欝なる認識の下に余は當時モロトフの伯林訪問を求めた。諸君は件の伯林會談の諸結果については承知の筈である。それらの結果はソ聯が當時遲くも今年秋には、都合では今年の夏には早くも進擊に移る決意を有してゐた事について、何等の疑ひをも抱かせなかつた。モロトフは、獨逸自身が――余は此の點を特に言ひ度いが――平和裡に彼等の進擊の扉を開かん事を要求した。

然し乍ら余は自ら好んで自己の屠殺者を求める或る種の動物の眞似をする類の人間ではない。

そこで余は當時モロトフにはベルリンで簡單に會つたきりで彼を歸國させた。今や賽は投げられ

たといふこと、及び我々にとつて至難なる行動も最早これ以上差控えてゐるわけに行くまいといふことが、余の目には明かとなつた。この事は就中バルカンに於けるソ聯の行動によつて、即ち我々がドイツにゐても十分に知り得ための地下的攪亂工作によつて、證據立てらた斯くして遂ひにソ聯の進擊決意を認識し得る時が來た。即ち特にセルビアでは、ソ聯の煽動によつて諸君のよく知つて居られる例の叛亂　即ち英國側の密偵共によつて目論まれたボルシエヴイストの手先共による暴亂が勃發し、それにすぐ引續いてソ聯の對セルビア援助條約が締結せられた。當時スターリン氏の確信せるところは、此の方面への出兵は早くも我々を著しく弱化せしめるであらうといふこと、及び次いで間もなく彼が武器及び資材を用ひずに寧ろその夥しい人的資源に物を言はせて舞臺の表面に乘り出し得る時が來るだらうといふことであつた。だが今日余は初めて次のことを言明することが出來る。卽ち、我々がこれによつて學んだことは尙ほそれ以上の何物かであつたといふこと、そしてそれは一九四〇年中に倫敦に於て英國下院の所謂秘密會なるものが度々行はれたといふことである。而してこれらの秘密會に於てチヤーチル氏はその思想やその希望や果てはその確信を語つたのであるが、それはつまりソ聯が今に英國の味方になつて進擊を開始するといふこと、彼がクリツプス氏から得た確實な根據により、ソ聯が愈々出馬して來るのは精々

一ケ年か一ケ年半後の事であるから、精々あと一年か一年半の辛抱が肝心だといふ事であつた。我々は之に關しまた、チヤーチル氏のその當時は不可解であつた勇氣の原因も亦こゝにあつた。その第一はて絕えず知り得たのである。（喝采）余は茲に於て之等の事柄から結論を引出した。即ち我々が今日生起我方の南東戰線を解放するといふ事であつた。余は唯かういふ事が出來る。即ち我々が今日生起した事態の總てについて知るに及んで、ムツソリーニに心から感謝しなければならないといふ事である。それは彼がまだ一九四〇年の內に此の膿腫に銳い針を突き差しておいてくれたからである。數週間ならずして我々の味方となつた歐洲諸國の助力を得て、この問題を終局的に解決し且つクレータ島の攻略及びそれによつてダーダネルス海峽前面に閂を差す事に我々は成功したのである。そこで余は東方に於ける我大敵の動きを仔細に觀察した。六月中旬になるとその徵候は脅威的なものとなり。同月中旬を超えるや事態の急迫狀態は正に一刻を爭ふ程である事は最早疑ふ餘地がなかつた。そこで余は六月二十二日を以て我方から直ちに進擊に移るべきことを命じたのである。

ところで當時の情勢はどうであつたか？　西部方面はそれだけとしては安全であつた。だがこれに關し余は次の一事だけは豫め言つておきたい。即ち、我等の敵の陣營內には所謂天才的政治

家なる者共がゐて彼等は余が東方に摑みかゝる勇氣を得たのは西方に於て攻撃を受けないと解つたからであると今となつて言つてゐる。（盛んな笑聲）これらの天才連中に向つては余はたゞから言ふことが出來る。——諸君は余の愼重さを見損つてゐる。と、余は西部に於て、敵に向つて何時でも戰へるだけの用意を有してゐた。諸威でなりと、我國の沿岸でなりと、それとも和蘭でなり、白耳義でなり又は佛蘭西でなりと、兎も角英國の諸君が攻勢をとりたいとお望みであるならば、余はたゞ次の如く言ふことが出來るのみである卽ち何時でも進撃しておいでなさい、だが諸君は來るが早いか又もや忽ち追ひ返されるであらう、と。（割れるが如き喝采）我々は今日これらの岸沿地方をつい一年程前の狀態とはすつかり變へてしまつた。其處では種々の活動が行はれたのであるが、而もそれは國家社會主義的徹底性を以て遂行されたのである。

われ〳〵はバルカンをも掃蕩しつくした。北阿にはわれ〳〵の共同の努力に依つて、これまた堅實な秩序を齎らすことが出來た。芬蘭及び羅馬尼も亦われ〳〵の側に馳せ參じることを欣然承諾した。勃牙利亦同じく危險を感知した。洪牙利は此の偉大なる史的時間の到來せるを察知し悲壯な決意をなしたので余としても六月二十二日に至り良心に愬へて責任を引き受け得べきを信じ——僅か數日を先んずるだけではあつたが——此の危險に立ち向かつたのであつた。我が古き黨

員諸君よ！　此の戰鬪は今や事實上獨逸のためのみならず、全歐洲のための戰鬪、存亡を賭しての戰鬪となつてしまつた。諸君は北は芬蘭の勇敢な小英雄民族から始まる我々の盟邦軍の事を知悉してゐる筈である。芬蘭軍は復たもや遺憾なくその勇武を發揮したのである。然しそれのみかこれにスロヴアキア、洪牙利、羅馬尼、更に全歐洲の盟邦たる伊太利、西班牙、クロアチア、和蘭、丁抹義勇軍、佛蘭西、白耳義義勇軍までも加はつてゐる。茲に余は確言することが出來る。卽ち東部に於ては恐らく有史以來初めて、認識を共にして全羅巴が戰つてゐるのである。と、それもかつて匈奴と戰つたやうに。（嵐の如き拍手）

本次戰爭の目指した目的は

一、敵威力、卽ち敵兵力の殲滅と

二、敵軍事食糧基礎の占領

といふことである。

制覇欲の如きは我國に關する限り問題となり得ないのである。若し人あつて「レニングラード附近では守勢的ではないか？」と反問するなら余は卽坐にこれに對して應へるであらう。「我々はレニングラード前面で必要を限度として攻勢的であつたがこれはレニングラードを包圍する處

である。我々が守勢的である今こそ敵は突破の擧に出づべきであるが、結局敵は市中が餓死するの他ないであらう。（拍手）余が絶對必要なき限り、これ以上の犧牲者を欲せさるは勿論である。若し人あつてレニングラードの包圍を解かんとする者あらば余は命じて同市に突撃を試み必ずやこれを攻略し去るであらう。何故なら、東プロイセンの國境よりレニングラード前面十粁の地點迄席捲し來つた者が何で以後の十粁をレニングラード市中迄突入出來ない筈があり得ようか。然しさうした事は最早必要ではないのだ。今や同市は全く我方のため包圍され、その解放は不可能とされ、我方の手中に歸するばかりになつてゐるのだ。

若し人あつて「只の焦土に過ぎぬ同市をか？」と反問するなら余はこれに對して應へるであらう。我々はレニングラードなる都會に執着を感じるものに非ずレニングラードの工業中心地帶の潰滅にこそ關心を寄せるものである。と。若しソ聯にして同市爆破を希むなら。我々としては若干の努力を節約出來ようといふものである。制覇欲の如き——余は敢へて再びかく言ふ——我國に關する限り何等問題たり得ない。若し人あつて「進撃せざる理由如何？」と反問するならば余はこれに對して目下降雨、降雪期にして乃至は鐵道の修理成らざるが故にと應へるであらう。抑も進撃の速度を決定するものは退却速度を決定せるかの驚嘆すべき英側戰術家に非ずして、實に

獨り我々のみなのである。第二には敵軍事食糧補給原の占領であるが、此の場合も我々は着々計畫的に事を運ぶであらう。更に次の如く應へるであらう。多數工場の機能を停止させる爲に偶々一工場の破壊を以て足れりとする場合もあるわけである。茲に余は以下從來の戰果に就いて綜合的に述べてみる事にするが、捕虜數に至つては今や優に三百六十萬に達してゐるが、これは三、六〇〇、〇〇〇人の捕虜といふ意味である。

然も茲に英國側の愚鈍漢來つて右は未確認の數字なりといふ者あれば余としてはこれが回答は御免を蒙り度い。獨逸軍部の計算にして誤算の如きことの起り得る筈がないのである。從つて右の數字は我々が佛英捕虜數の發表に當つて事實と逐一符合せる如く、極めて正確な數字なのである。

茲に若し余にして、ソ聯が我國に於けると同じく、一戰死者に三乃至四名の戰傷者を加へるなら、早晩恢復の曉、再度從軍し得る輕傷者を除いても少くとも八百萬乃至一千萬の決定的脱落をも意味する數字が生じて來る筈である。黨員諸君、かくては世界の如何なる軍隊と雖も立上がる事は出來ないではないか。ソ聯とても此の例に洩れるものではないのだ。

此の間我方の鹵獲せる資材に至つては計り知れざるものがある。目下判明せるところだけで

も、飛行機一萬五千、戰車二萬二千以上、砲三萬七千を算してゐる。これは實に尨大な資材でなくて何であらう。全世界の工業を以てしても、勿論獨逸工業をも含めて、到底かゝる資材を、借すに時日を以てしても、補充することは出來ない。少くとも我らの民主主義國の工業を以てしては、茲數年間に補充することは到底出來ないところである。

次に以下領土的の問題に就いて述べてみることゝする。我々は今迄に一百六十七萬平方粁を占領してゐる。それは佛蘭西の三倍から四倍、英本土の約五倍を占めてゐる領土である。此の地域中にはソ聯の有する全工業、全原料の六割乃至七割五分が現存してゐる。余は近き將來に於て幾多の措置を講じてこれらに徐々にではあるが確實に遮斷を加へるに至るべきことを希ふものである。

然も我歩兵が行軍力に於て成し遂げたものは史上未曾有のことに屬する。ダンケルクよりオステンドに行進し、オステンドよりダンケルクへ引返すぐらゐの事ならそれもまた容易で、余も敢へて否定するものではない。然し、所もあらうに獨逸國境からロストフ又はクルミヤ又はレニングラードに行進するとなると、これは途方もない距離といふもので、いはゆる「勞農の樂園」の道路を考慮する時愈々その感を深うせざるを得ない。余は今迄に電擊戰なる言葉を使用したこと

は一度もない。それは此の言葉が單なる言に過ぎないからである。然し敢へて此の言葉を或る戰役に應用せんとするならば、須く今次戰役にこそ此の言葉を冠すべきものとする。本戰役に於けるソ聯の如く、短期日に倒潰殲滅を蒙つた尨大國は史上一度としてなかつた。

この勝利はたゞ獨逸軍の未曾有の進擊と犧牲精神を以て言語に絕する過勞を克服したことによつてのみ實現し、達成し得たところのものである。而も今獨逸軍のこの戰線の背後に第二の戰線即ち故國があるのである。

獨逸兵士は占領地域の住民に對しては極めて秩序整然として規律正しく行動してゐる。

また獨逸軍は住民に對し何らの暴行をなさないし、また獨逸兵による强奪行爲は行はれずまた掠奪に出掛けることも絕對にないのである。若し假りにかゝる行爲があるとしたならば本國に於けると同樣に嚴罰に處せられることになつてゐる。我々は占領地域の住民を保護してゐるのだ。併し若し獨逸軍の占領に對し或ひは暗殺行爲によつて占領地域を動搖し得ると信ずる者があるならば、彼らに對しては曾つて獨逸國内に於ける我々の敵が我々を威嚇し得ると考へてゐた時にこれを徹底的に打倒した如くに擊碎するであらう。而も結局我々は敵のテロを完全に片づけて仕舞つたのである。加ふるに一部には國内に暴動や革命が起るであらうと云ふ極めて近視眼的な希望

に米國にまた加奈陀に居るのであつて我々の間にはゐないのである。余は屢々余の生涯に於て豫言を爲した。ある者は余について嘲笑するが併し余は再び豫言者でありたいことを愉快に感ずるのである。

獨逸は一九一八年十一月を決して再び繰返さないであらう。當時獨逸が降服したと云ふたゞ一つのことだけは今回あり得ないことを斷言し得る。若し我々の敵が「然り、故に戰爭を一九五二年まで繼續させるのだ」と云ふならば彼らは彼らの好きなだけ繼續すればよいのだ。何故ならその戰場に於ける最後の部隊は獨逸軍であらうからである。

諸君の知る如く余は屢々一つの事について幾日も、幾月も更に數年間も沈默してゐることがあるがこの時に余をある方法によつて威嚇しようと欲することはまた全く無益なことである。これは余はそれを顧慮しないでまたそれを認めないと云ふのではない。今日特に米國から、常に獨逸に對して新しい恫喝が發射されてゐるが余はこれを適時に注意し、すでに一年前に言明してゐる。卽ち武器、また人間を殺すために使用される物資を積む船は如何なる船舶と雖も魚雷を受けるであらうと云ふことである。（猛烈な拍手）　若し大統領ルーズヴェルトが曾て波蘭の戰爭參

加に對し責任を有し倘また現今我々が彼にその責を歸し得る如き、佛蘭西を今次戰爭に引き入れるべく强要したルーズヴェルトが若し發砲命令によつて我々を多分軟化させ得ると信じてゐるとするならば、余はたゞ一の答をルーズヴェルト氏に呈することが出來る。

卽ちルーズヴェルト大統領は獨船舶を發見したならば發砲せよと彼の船舶に對し發砲しないで彼等が攻擊するや否や防禦せよと命令した。防禦しない獨逸士官に對しては余は軍法會議に送るであらう。若し米國の船舶がルーズヴェルト大統領の命令に基いて發砲するならばそれは自己の危險に於て爲すことになるのだ。卽ち獨逸の船舶は防禦する爲に魚雷を命中せしめるであらう。

余はまた獨逸の專門家によつて一枚の地圖を作製したと云ふかゝる笑ふべき揑造と闘り合ふことに何らの興味を有してゐないのだ。余はたゞ一言ルーズヴェルト氏に對し言ふことが出來る。卽ち余はある特定の地域に對し何らの專門家を有してゐないことだ。余にとつては余の頭腦のみで充分である。余を援助するための何らのブレーントラストを必要としない。また余は世界地圖で教科書に書き込んだりする中等學校の生徒ではない。余にとつて南米は月の彼方に存在する。これこそ最も愚かな主張だ。

我々はまた獨逸が世界の宗教を抹殺しようとしてゐるとする第二の揑造を取り上げるであら

う。余は現在五十二才であつて余としては子供らしい馬鹿げたことよりも他のことを爲すであらう。獨逸に於てはまた我々獨逸人の理解によれば各自はその作法に從つて祝福され、生活されるべきである。

余は米國に於て僧侶が國家に反對して演說し而もかゝる說教を聞くことを兵士に禁じてゐることを讀んだが、これは我々にとつてどうでもよいとしてたゞ一つの點が區別される。即ち獨逸に於ては宗教團體が每年約九億マルク國家より受けてゐるが米國に於ては一文も出てゐないといふことだ。また獨逸に於ては僧侶にしてその信條を以て國家の根本觀念に干涉しない限りその信條は決して壓迫されてゐないのだ。このことは併し極めて少數に及ぼしたことがある。併し今次の戰爭に於て獨逸國家の背後には、若し今次の戰爭によつて獨逸が敗北するならばスターリンの保護領となり宗教は獨逸國家の下に於けるよりも更に惡しく取扱はれるであらうことを正確に知つてゐる大多數の僧侶がゐるのである。

獨逸の外部よりも獨逸國民に對し干涉しようとする凡ての企圖は兒戲に類しまた笑ふべきものである。

吾々の運動の結果を示す最大の證人は、戰線から歸つて來て、二十三年間に亘る共產主義の實

績と吾々のそれとを比較することの出來る人々であらう。彼等は國家社會主義が何を爲し來つたか、又吾がヨーロッパが赫々たる勝利を得る時、その前途にあるものは何であるかの判斷を下すことを得るであらう。彼らは吾々の大目的を理解することが出來る。卽ち吾々が今やこの戰鬪に於てヨーロッパの東方より來る危險を最後的に拂拭し、これによつて測り知るべからざる程豐儲にして、又測り知るべからざる程豐富な鑛產物を產する東部ヨーロッパをして反ヨーロッパ陣營に動員せしめることなく、逆にヨーロッパに奉仕せしめるのだといふことを理解するのである。

余はこれら總べての事實を、云はゞ一段と高所に立つてこれを見てゐる。余はフランス人と此の國のユダヤ人、ベルギー人とそのユダヤ人、オランダ人とそのユダヤ人を區別する。余はこの氣狂ひじみたヨーロッパ機構、卽ちヨーロッパの最も富める部分が事實上絕えず反ヨーロッパ行動に動員され、而も自國民に最も原始的な生活水準を保たしめることとさへ敢へてしようとしないこの氣狂じみた機構の犧牲として、無數の人間がそこに生活してゐることを知つてゐる。これは吾が將兵たちの等しく目擊せるところである。豐儲無邊の自然に惠まれた國、他國に比べて何分の一かの勞働をすれば何倍かの收穫を得ることの出來る國、而もその人民は自己の所有物と稱するに足るものは殆んど鍋釜一つだになく、悲慘なる茅舍の中に棲息し、言語に絕する生活に追ひや

られてゐるのである。今もしこの方面より脅かす危險が拂拭されるのみならず、この豐饒なる土壤がヨーロツパの利用するところとなるならば、されこそ我がヨーロツパにとつては眞の解決となるであらう。若しそれ尊敬すべき紳士ウヰルキイ氏が、ベルリンかワシントンか何れか一つが世界の首都たるべき可能性あるのみと言はるゝならば、余はただ。

ベルリンは世界の首都たることを欲するものに非ず、又ワシントンも決して世界の首都とはならたいであらうと答ふるのみである。

東部に於ける吾々の偉大なる目標は、畢竟するところ我が嚴として犯すべからず綱領の最後の實現に外ならぬ。この綱領こそ人間の勞働、而して又人間自身を、行爲、努力並に目的達成の中心點とせるものである。吾々は當時、黄金と資本の概念に代ふるに、人間、同國民、及び勞働の概念を以てしたが、今日再び、これらの概念に代ふるに人間及びその勞働を以てする。吾人はこれによつて、今吾人と提携しつゝある總ての國々、殊に吾らと等しき苦難、否、獨逸自身よりも寧ろ遙かに著しい苦難を忍びつゝある國、卽ち伊太利を包含せんとするものである。（大喝采）余はムツソリーニ首相が、この鬪爭を我々と同樣に感得してゐることを知つてゐる。その國貧しく、人民過多にして常に妨害を受け、日々の糧を何處より得べきやを知らない狀態だからであ

る。ムッソリーニ首相は、この同盟こそは世界の如何なる暴力によつても破らるゝものではないことを余に誓言されたのである。（再び嵐の如き喝采）

二つの革命が、時を異にし、形態を異にしつゝも、等しき目的を以て着手された。この二つの革命は、相携へてこの目的を達成するであらう。今や更に多數の歐羅巴國家が、我々の側に協力しつゝある。卽ち殆んど全部の東南歐羅巴が我々の陣營に立ち、又他の廣大なる歐羅巴地域も、國家的にでなくとも、少くとも精神的態度に於て我々の戰線に組してゐる。從つて國家社會主義者として我々は、今日もはや孤立してゐるのではなく、强力なる歐羅巴共同戰線の中にある。而して我々は、本年末には――

この歐羅巴戰線によつて最大の危險は旣に地を拂つたと確言することが出來るやうになるであらう。今この時に於て、今後一千年間にも及ぶ歐羅巴の運命が決定されるであらうといふことは、何ら疑問の餘地がない。我々は皆、この時代を開拓したことを幸福とし、古くより苦難を共にして來た親友である諸君は、これを誇りとすることが出來るのである。我々は旣に今年中に、更に大なる誇りを以て、古き戰友たちの墓前に赴くことゝなるであらう。昨年我々は、或は彼らの前において些か釋然たらざるものがあつたかも知れない。

我々は赤色戰線と鬪爭しなかつた。運命に餘儀なくされて、彼らと戰鬪休止の條約を結んだのだ。

余はこの休戰を嚴格に守つた。しかし他方に於てはこの義務からの解放が要求されるに至つた。一九一八年には我々は敗地にまみれた。當時我國は二百萬の戰死者を犧牲とし七百五十萬の負傷者を出したにも拘らず、國內に勃發した革命の狂氣沙汰により勝利を奪はれたのである。しかしそれはこの劇の發端であり第一幕に過ぎなかつた。第二幕と終幕とは、今書かれてゐる最中であつて我々は今度こそ前に奪はれた勝利を取返すであらう。そして今一點一點、一項目を仔細に計算しこれを收得するであらう。（湧き立つ如き拍手）

そして大戰の戰死者を祀る墓前に詣で、「戰友諸君、諸君の死は徒勞ではなかつた。」と述べ得る時が來るであらう。かつて犧牲黨員記念塔の前に宣言した事を我々は今千倍もの權利を以て世界大戰に於ける我將兵の墓前に告げる事が出來るであらう。即ち、

「戰友諸君、諸君はやり勝つたのだ！」

# フォン・リッベントロープ外務大臣の聲明

一九四一年十一月廿六日伯林ホテル・カイセルホーフ招宴席上

閣下、諸氏、黨員諸君！

余は茲に御一同に對し本日の催しに御來集下されたことを心から感謝するものである。此の催しこそは閣僚、政府、黨、軍部要人、藝術、科學、工業代表、獨逸民間有力者に、外來の貴賓を紹介する絕好の機會を齎らすものである。余はまた此の集りに於て特に內外新聞社、放送局代表者諸氏に心からなる歡迎の意を述べるものである。諸君、われわれ頃日來、大多數歐羅巴諸國の外務大臣、東亞友好諸國の代表者、卽ち伊太利、大日本、洪牙利、滿洲國、西班牙、羅馬尼、勃牙利、クロアチア、芬蘭及び丁抹の代表者を當地國都に面接し得たことを無上の光榮とするところである。其の後中華民國を加へるに至つたこれら秩序を愛好する諸國の代表者と共にわれわれ

は昨日滅共を目指す神聖な條約を確認した。本條約こそはわれわれ諸國を共産主義から救ひ拔く迄協力し、然も此の人類にとり怖るべき精神的病魔の根絶するまでは熄まずとする彼ら諸民族の意志を表明するものに他ならない。新しき歐洲の團結と形成への道程に對し一の指標を示しまたその他の世界に於ける正しき秩序の誘致を示すことがここに明示された、この特別なる機會に際し獨逸政府は特に喜びと滿足とを感ずる次第である。閣下、余はこの機會に御列席の閣下に對し今次戰爭の勃發とその後の經過についてまた現下の外交問題に對する獨逸政府の見解について一言述べたいと思ふ。獨逸軍、伊太利、羅馬尼、洪牙利及びスロヴアキアの同盟軍及び北歐の勇敢なる國民また西班牙、佛蘭西、クロアチア、丁抹、諸威、和蘭及び白耳義の義勇軍等の英雄的行爲によつて共産主義とボルシエヴイズムの國家的權力は崩壞に瀕しヒトラー總統の言葉を藉りるならば最早決して起ち上らしめないまでに爲したのである。

二人の偉大なる人物、卽ちドイツのヒトラー總統と伊太利のムツソリーニ首相は旣に二十年以上前にこの危險を認識し爾來過去の時代の觀念と道德のこの最後の頽廢に對し戰ひ而して彼らの善良なる國民をその恐るべき深淵から救ひつつあるのである。この偉大なる行爲は今日すでに歷史に記錄されてゐるのである。この二人の偉大なる指導者が國民社會主義とフアシズムの標範と

教說とによつて各自國民の存在のための內的な前提を創造した後に彼らは第二の道程に入つたのである。即ちそれは外部の世界にある殆んど克服し難いように思はれる敵に對し彼らの國民の將來を保證することであつた。自國民の比較的少數の層の搾取階級に指導され有產階級の利己主義的な考へ方によつて支配されてゐる西歐の民主諸國は狂氣の沙汰であるヴエルサイユ條約の搾取條項に馴らされて切迫した情勢に立ち至つてもその修正を欲しなかつたのである。民主諸國は過去に於て世界の物資の分配に際し少數の分配にしかあづからなかつた獨伊兩國民の生活の基礎だけでも即ち每日のパンを保證せんとしたヒトラー總統及びムツソリーニ首相の理性的な企圖に對してさへ最初より反對したのである。閣下！　英國が獨逸に對し言ひ掛りをつけて今次の戰爭を起したと云ふことは殆んど想像されないほどである　と云ふのは獨逸は任意投票によつて獨逸の都市であるダンチヒ市を獨逸に歸屬せしめまたダンチヒ廻廊を通過して自動車道路を建設しようと欲したからである。勿論一九三九年九月三日の英國の對獨宣戰に對してこれは表面の理由であつたのである。

實際には當時尙世界を制覇してゐた英國の權力者たちは、ヨーロツパの世話人の如く誇稱してゐたのであるが、彼らはドイツに對して、ヨーロツパの大民族たるに適はしい、或は多少共不安

のない生活を保證する場所を與へなかつた。借問す、何故であるか？　回答はただ次の數言に盡きる。即ち僅か四千五百萬の英國人に全地球の三分の一を支配せしめ八千萬に垂んとする人口のドイツ人には必要缺くべからざる生活圈をすら與へないでをかうとする純然たる英國の僭越行爲からでありドイツ人の勤勉と再建、ドイツの社會的事例に對する英國爲政者達の不安からであつた。

ドイツの平等權を認め、かうした兩國民の同權を基礎として相互の關心事の均衡を圖り、延いては爾餘の世界に對する自然的な利益享受協同體を創設する代りに、當時の英國の爲政者共は、又もドイツを壓迫することによつて、同國の不當なる支配權を確保し得るものの如く信じたのだ

これに反してヒトラー總統は英國に對するに、誠に寛容そのものの如き態度を以てした。この政策は過去に於て英國が獨逸國民に加へた不當なる仕打に比較すれば實に前例を見ざるものといふべく、又、ヒ總統が當時の決意を斷行する事により兩國の利益を圖るべき獨英提携を達成する爲に凡ゆる手段を盡さんと望んでゐた事を物語るものであつた。

ヒ總統のこの政策は單に英帝國の海陸兩方面よりする完全な確保といふ點においてのみならず、更に英帝國の全領土を維持せしめる爲に獨逸の兵力を用ふる事も敢へて辭するものに非ずと

するものであつたが、今もしこの政策が英國に對して如何なる利益を齎し得たであらうかを考へてみるならば、英國爲政者達の盲目さ加減は理性を有する凡ゆる人間にとつて明々白々たるものがあらう。

英國の決定的な勢力、就中ユダヤ勢力の意見としては獨逸は英國によつて與へられた歐羅巴に於ける役割、即ち劣等國民としての役割に滿足し、英國側が獨逸國民に適當してゐると考へた生活水準を、それが耐え得るものであるか否かを問はずして承認するか、或は戰爭になるか、二者其の一なりとしてゐた事實は勿論交渉中の當時にあつても獨逸側の充分知悉するところであつた。

當時の凡ゆる交渉に際しては陰に陽に戰爭の脅威を仄かすのが英の政治家達が常に用ひた奥の手であつた。余は此の點に關して自信を以て證人たり得るのである。其の理由は余はナチス黨政權掌握以來數年間に何時もヒトラー總統の提案を携へて英國に赴いたが英國人は頑迷にて常に之を拒否したのであつて彼等に取つて最も有利であると見ゆる機會に宣戰するであらうと余は何時もヒトラー總統に報告しなければならなかつた次第である。其の頑迷性は反つて英國爲政者の對獨眞情に關する我々の判斷を强めた。かゝる唯一の有利な提案を拒否するものは戰爭を決意して

ゐるものであるといふのが我々の確信する所であつた。余が英國事情に精通せず、又英國人の性質を知悉せざる爲英國は決して戰爭しないだらうとヒトラー總統に報告したと云ひ觸した賢明なる英國宣傳員が果して正しいかどうかに就ては余が喜んで之を將來の判斷に委すものである。

然し將來に於ては之れ以外の他の事、もつと重要な事が決定を見るに見るであらう。卽ち英國政治家が果して賢明なる政策を執つたか否かに就ての判決が下されるであらう。余が自から信ずる處に依ればこれに就ては旣に決定を見てゐるのである。當時と今日とに於て旣に事情が異つてゐる事は極めて一部の英國人にとつても明白となつてゐるからである。卽ち當時に於てはヴェルサイユ條約の改訂と獨逸植民地返還を認める代償として英本國及びその世界帝國保全のため獨逸と同盟を結ぶと云ふのであつた。ところが今日に於ては英國は世界最大の國家協同體に對し絕望的に戰はなければならないのである。

戰爭の勃發と共にイギリスは、前記の戰術を遂行し、ヨーロッパ諸國をして一國一國イギリスのために鬪はせる方針をとるに至つた。そしてその先頭を承つたのがポーランドである。もしイギリスが對ポーランド保證をしなかつたと假定すれば、勿論この國は獨逸と平和的協調の道を選んだに違ひない。しかしイギリス、詳しく云へばチャーチル氏はポーランドを煽動して對獨戰爭

のきつかけをつくるに至つたのである。われわれの後日聞及したところによるとチャーチル氏は當時すでに自國の首相チエンバレン氏の背後に立つてルーズヴェルト氏と共に彼を監督し紛爭に驅り立てたのだ。同時の佛蘭西は、やはり獨逸と協調の道を辿つて來たのであつたが、この國もイギリスの命令で動くことになつた。對英依存の馬鹿者共乃至狂罪者共に、佛蘭西を驅つてこゝに至らしめたのである。

かくてお次の番は諾威であり、これに續くものは和蘭及び白耳義であつた。しかし獨逸國防軍は僅か二三ケ月の間にこれらの國々を占領することに成功し、イギリスは「光榮ある」ダンケルクの撤退を經驗したのである。しかしながら伊太利は、持たざる國に對する持てる國の戰に於て、獨逸側に立つことになつた。

然しそれでも尙ほ英國は飽くことを知らなかつた。卽ち未だヨーロッパに割據し得られるものと考へて英國はバルカンに鋒を向けたのである。樞軸國側は此の時バルカンの平和維持のため凡ゆる外交的考慮と努力を拂つてゐたのである。然し英國はダンケルクの敎訓を肝に銘せず無益にもギリシヤ及ユーゴースラヴイアをその自己の利益促進に使役、導入せんと企てたのである。ムツソリーニ首相は茲に於て此の情勢並びに之等の國々に依り以前から强化されてゐた奸計更に非

基く戰爭を先づギリシヤに對し敢行し、軍事行動を開始したのである。

次いでユーゴスラヴイアが完全に英國側に立ち且つ英國がその隷屬的民族をオーストラリア及びニユージランドから公然と出動せしむるや樞軸國は良好な季節の到來を俟つて數週間にしてヨーロツパのこの部分を一擧に英國人の手から淸掃したのである。斯くしてセルヴイアもギリシヤも亦クレタ島もこの驚く可き英國作戰の犧牲になつたのである。アメリカ合衆國大統領がこの新規な英國の冒險を再び援助したことは更に述べるとしよう。

然し乍ら更に剔抉すべき事は英國が凡ゆる歐羅巴の國を獲得するか或は自己のため戰爭に捲き込まんと企てた事である。にも拘らず責任を自覺せるヨーロツパの政治家は情勢を達見し正しく判斷して正當な道を選び斯くの如き英國の保證提案や他の煽動を封じたのである。

ところが英國がヨーロツパの北部、西部、南部及び南東部に試みた決定的軍事的轉換はこれ又何らこれを中止せしむものとはならなかつたのでいきほひチヤーチル氏及びルーズヴエルト氏を首班とする合衆國の反獨的共犯者は東部に希望を繫がざるを得なくなつた。諸君！ 余は玆で共同の自由獲得戰のかの段階に就き述べることとする。即ち余の確信では、此の段階こそは他日、

必ずや戰爭にとつてもヨーロッパの運命卽ち、ひいても世界すべての文化國の將來にとつても、決定的段階と稱せらるるに至るであらう。卽ち對ソ戰に就て語らんとするものである。

先づ最初に余は一九三六年ドイツが、獨ソ民族間に猶ほ且つ妥協の餘地を見出さんとする希念の下に、相互不可侵及び兩國權益圏設定の精神に基いてモスカウ政府と同盟を締結せる事實を想起していただき度いと思ふ。國民社會主義とボルシエヴイズムの間に蟠まる對蹠的世界觀の對立せる關係上當時總統の心境としてはこの措置に出るまでは並々ならぬものがあつた。

當時總統はかうした念願の他に、かうした諒解がやがて芽を出しソ聯はいきほひ世界革命の理念を一擲し、除ろにドイツ及びソ聯に隣接するヨーロッパの他の諸國にとり友好的隣邦となるであらうとの希望を抱き、これ亦ソ聯に於ける或る種現象の結果同地發情報に見るも極めて當然なもののの如く見られてゐた。

獨逸は一方這般の諸聲明を忠實に實施しつつ一九三九年夏以來對ソ政策の全面的轉換を試みるに至つた。共の間獨逸は專ら純獨逸的權益圏のみに局限し、偶々疑義の發生あるも常にソ聯との好意的了解を招來すべく陰忍努力をつゞけて來たのである。獨逸は一切の疑義を未然に防ぎ、あらゆる係爭發生の蓋然性を芟除せんとする念願を抱きつゝ遂に隣接諸國在住の全獨系市民を本國

へ歸住せしむるまでの措置を取るに至つた。

獨逸國政府はこれによりソ聯の獨逸、否隣接國に對する態度に適當な修正が加へらるべきものと信じてゐたに拘らず事實は甚だしく失望を來した事は御承知の通りである。

一九四一年六月二十二日附を以て外務省よりソ聯政府に手交せる覺書に於て獨逸政府は全世界に對しソ聯が獨逸の裏を掻いた卑劣極まる方法とソ聯が一九三九年の協定を以て單なる棋戰と同一視せる事實を公表するところであつた。スターリンは英國が早晩對獨交戰を決意するものと豫想してゐた。スターリンは獨逸と西部民主々義諸國との疲憊戰が長期化し、何ら力を勞せずしてボルシエヴイズムの歐羅巴進出を可能ならしむるものと高を括つてゐた。かくあるべきを祕かに期してゐた。スターリンは獨逸が佛蘭西を屠り英軍を歐羅巴より驅逐するに及んで少なからず失望をしたのであつた。かくてスターリンは自然其の戰術を一變し急遽英米との撚りを戻し對獨進駐の注備を急いだのであつた。——當時獨逸外務省は獨ソ條約の現存を無視しつゝ共產分子が依然として對獨切り崩し奸計、スパイ行爲破壞工作を遂行せる點と併せて共產インターナショナルがバルカン諸國及び全歐に於て其の宣傳活動を繼續しつゝありし顚末を詳細發表したのであつた。

更にソ聯權力が凡ゆる協定に反し如何にして東歐洲のボルシエヴイキ化を進め北に於ては芬蘭南に於ては羅馬尼の犠牲を强要し、ダーダネルス海峽に軍事基地を建設するのに對して獨逸の同意を要求しヒトラー總統が此の無理な要求を拒否するやソ聯は北氷洋より黑海に至る迄の赤軍を更に西部に進駐せしめ、遂には我國境は勿論芬蘭及び羅馬尼國境に面し全露西亞軍力か歐羅巴に向つて進駐せしめた上ソ聯は最後には其の軍事的進軍のみならず外交方面に於ても着々と反獨的態勤を採るに至つた經緯が指摘されてゐる。勃牙利、洪牙利、羅馬尼及び芬蘭に於けるソ聯の陰謀は遂にはセルビア迄も延びた點も敍述されてゐる。特に當時の獨逸外務省覺書は左の點を特に指摘した。

「獨逸政府の入手した文書に基くとモスカウ駐在英大使クリツプスは一九四〇年にソ聯を英國の目標とするところに引込まんがため努力し然も此の努力は大いに成功した、」と。

共後獨逸政府は一九四〇年閉會せられた英國下院祕密會議に關する詳細なる文書を入手した。本文書によれば英下院が佛國崩壞後戰爭の今後の推移と機會に就て何人も當然だと肯定される程大いに憂慮してゐた事が完全に明らかとなつた。チヤーチル氏は下院の不安を緩和し英國民をして再び彼等の戰爭政策に贊成せしめんと試みて下院に於て次の樣な聲明を發表した。

一、チャーチルがクリップス駐ソ英大使の行つた交渉に基き、ソ聯が英側に立つて參戰するであらうとした明確な約言を得たといふ點及び

二、チャーチルがルーズヴェルト大統領より英國の戰爭遂行に對し無制限に援助を與ふべき旨の約言を得てゐる旨。

獨逸側の入手せるこの祕密會談に就ての報道によれば、チャーチル氏は上述の聲明を試みるに及んで改めて多數下院議員間に蟠まる暗雲を一掃し士氣を鼓舞し得たといふことである。

英ソ兩國の特務機關は夙くも一九四〇年バルカンに於て獨伊權益に背反して活躍を試みてゐた越えて一九四一年の初頭を迎へるに及んで上記の英ソ共同工作は愈々濃厚の度を加へ、遂に同年四月に勃發せるバルカン戰役をきつかけとして全世界に曝れてしまつた。此の英ソ計畫の目的はバルカン駐屯のドイツ部隊を出來得る限り三方より挾撃するにあつたが、本計畫も我バルカン友好國及びトルコ政府の態度が與かつて樞軸側の迅速な勝利に依り事なきを得たのは周知の通りである。

獨ソ戰勃發直前ビーヴアブルツク卿の凡ゆる必要な方法を以てソ聯を援助するといふ有名な聲明や、また米國にも同樣の援助を要請したことによつて英ソ關係の眞の狀態が最初に輿論の前に

明らかにされた。かくて獨ソ戰勃發直後ロンドン及びモスカウの間に發表された同盟締結はすでに長い間事實に於て存在してゐた狀態を公表したに過ぎなかつたのである。事實今日に於ては賭事師チャーチルがソ聯をドイツと決裂せしめた際に彼の願望をルーズヴエルト及びスターリンの願望とに一致させ歐洲に於ける最後の切り札をドイツに對して曝け出し、一切をこれに賭けた事は世界周知の事である。

チャーチルと共にまた全アングロサクソン世界は假面を棄て、ソ聯が尙ほ英國の歐洲に於ける不運な軍事的情勢を挽回し得る狀態にあり得るといふ點に希望をつないでゐるのである。

かくて西歐の民主國は一夜にしてボルシエヴイズムとの同盟を稀に見る不正な方法で讃美した。

從來ボルシエヴイズムとの如何なる交渉をも癩病患者に觸れる如く嫌つた英國の保守派や米國の百萬長者たちもソ聯は喜びと幸福と樂しい生活を爲してゐる市民の國であると世界に公言したのである。また英米の勞働組合や農民組合はソ聯は飽食と滿足を與へられた勞働者の眞の樂園を創造し、またコルホーズは幸福な農民の立場を維持する基礎となつてゐると極めて正確に彼等の驚嘆してゐる聽衆に對し指摘したのである。

猶太人や英國人の學者や文化團體の會員は倫敎や紐育のクラブに於てソ聯は元來學術的文化的創造の最高峰にあつたと言明した。極く最近までソ聯を以て無神論の揺籃として聖なる憤激を燃やしてゐた大司敎や司敎や桓棧官等はソ聯は常に基督敎の揺籃であつたことを突然語りまた今日その保護者であるカンタベリーの大司敎は赤軍及びその友人スターリンのために公けの禮拜に祈禱にたのである。チヤーチル及びルーズヴエルトは彼等に依つて宣言されたデモクラシーの神聖なる原理に對しボルシエヴイズム政體より近い政體はないと言明したのである。西歐の民主主義國の凡ての者は猶太的ボルシエヴイズムの犯罪國家に對する慈悲深い愛情と同情とを現はすことに轉向したのである。

この間スターリンによつて待望されてゐた物資援助は全く現はれないのである。チヤーチルとスターリンが最近互に「戰爭の好きな老耄軍馬」と云ふ言葉で云ひ現はされてゐることは全く實際と一致してゐるといふべきである。この言葉は余にとつて彼等相互の眞實な立場を最もよく現はしてゐるように思へるのである。

この五ケ月間にわが獨逸の軍隊は執拗極まりなき敵、即ち政治委員の威嚇によつて死鬪を敢へてする敵を排しつつ、最新式の砲、戰車等にぬかるみ、雨、雪、寒さ等に加へて言語に絕するソ

聯の惡路を乘り超へて連戰連勝邁進に邁進を重ねたのである。
この巨大なる戰鬪の一段階にしろ、たとへ遠方からでもこれをみた者は限りなき驚異の念に打たれざるを得ない。故國は今や我軍の想像にも及び難い業績を畏敬の念を以てみつめてゐる。併し余をして云はしむれば驚異的な我軍の英雄的行爲も無比の戰略的天才によつて之等の會戰が指揮されなかつたとすれば總て無に等しかつたであらう。
巨人露西亞が自らその周圍を回らし、且つ最近廿年殆ど完全に他の世界から遮斷してゐた秘密は今回の對ソ戰の進展に伴ひ初めて全部曝露せられるに至つたのである。ソ聯に於ては世界猶太閥に身を賣つた一人の暴君が無制限なる政權欲に驅られて一億九千萬にも上る共の國内の諸民族の全力を一つの目標に向はしめたのである。卽ちボルシエヴイズムを奉ずるモスカウ主義により全世界を制壓せんとしたのである。單に宣傳許りでは此の目的に到達する手段としては充分でないのを認識したスターリンは鐵の如き徹底さと無遠慮とを以て此の使命達成の爲ソ聯を暴力を以て準備したのである。人も物も同樣な狂信を以てこの目標に向つて驅り立てられたのである。露西亞人の文化的及び物質的生活水準は奴隷の標準に等しかつた。
現在の露西亞人は殆ど全て見るも哀れな陋屋に住み半ば飢餓に瀕し生活に意義あらしめる所の

全ての物を失つたのである。能力、美、家族、神は彼等の到底思ひ及ばざる所である。味氣なき辛い、悲慘な、何等生活の樂しみも、又、理想もなく露西亞人は人々の到底想像し得ない如き状態に陷つたのである。人類が創造した組織を僅か一時代をも經たない内に人類をして完全に畜生にまで陷れた事實を認める時は實に悲慘極まるものである。此の囚人の如き環境に於て農夫も勞働者も戰時作業のために壓迫され最後の一ルーブルに至る迄世界猶太閥に屬する赤軍の相次ぐ軍備擴張の爲に支出されたのである。斯くして數年前迄は未だ村落や小都市が存在してゐたところに尨大なる軍需及び戰時經濟の爲の大工場が建設されるに至つたのである。嘗ては平和なる耕地であつたところに大規模の軍事鐵道や飛行場が建設された。

歐羅巴の政治及び軍事情勢がソ聯に有利と見えるや、時を移さず此の猶太ボルシエヴイズム的壓迫ローラーは全歐を縱横に蹂躙する筈になつてゐた。獨逸軍が同年六月廿二日といふ土壇場になつて立ち上つた時には既に赤軍の對歐攻勢進駐は完了濟みであつた。

諸君！　此の尨大ソ聯の權力伸張とその獨裁者スターリンの對歐劃策をめぐる一切の思惑と前提條件とは更に次の事實のため忽ちにして凌駕されて了つた。卽ち總統は獨逸及び聯合軍を携げ一九四一年の大規模殲滅戰に於て此の尨大國を完膚なきまでに叩きのめし、歐羅巴を猶太的ボル

シエヴイズムの殲滅と永遠の奴隷化の脅威から救出し得たのであつた。此の點後世は永久に總統に感謝すべきである。

余は此の機會に一九四一年に於けるソ聯の潰滅と歐羅全地域に及ぶ占領を次の如く要約せんとするものである。

一、大陸に殘された英國最後の盟邦も今や重要の因子ではなくなつて了つて。獨伊及びその聯合國は今や歐羅巴に於て攻撃し得ざるものとなつて了つた。然も端倪すべからざるその實力は今や愈々手持無沙汰の體である。

二、經濟的にみて樞軸國及びその友邦は今や全く海外からの補給を必要としなくなつた。歐羅巴は今こそ永久に封鎖の脅威から解放されたのである。歐露の穀物及び原料資源は歐羅巴の需要を充たし得て余りある。歐露の軍需工業はその儘そつくり獨逸及びその友邦の軍需工業の膝下に參劃する事とならうしその爲歐羅巴の戰力は今後更に一段と增大するであらう。然も此の厖大地域の行政は既に早くも緖に就いてゐる。かくて今や樞軸國及び共の同盟國の英國に對する最後的勝利を形成すべき二つの殘された決定的前提條件は早くも創造されたに等しいと云はざるを得ない。一九四一年度に於て今日迄獨逸及び同盟軍はソ聯の最も人口稠密な部分は素より原料資源、

農産物の點で重要なソ聯領土の大部分を占領してゐる。更にまた此の領域にはソ聯工業の大部分が散在してゐる。ソ聯に残された軍事的、經濟的立直りの可能性に鑑みて、東部今後の推移を豫測する事は敢えて困難ではない。

訓練された兵士の不足及び軍需資材の缺乏は勢ひソ聯をして將來に亙り大局上勝敗を左右する程重要な軍力傾倒を不可能ならしむるものに他ならない。彼我戰術上の優劣を檢討するに斯くして樞軸國及びその同盟國は英國及び英國の援助國に比し戰術上絶對優位を保つてゐると云はざるを得ない。歐羅巴の北部、西部、東部及び南東部に於ける戰鬪は樞軸側の勝利に歸し今後英側戰術家の夢想が如何に策謀を逞しうした。ところで、到底ヨーロツパに築かれた既成事實を左右することも出來ないのである。

英國はすでにヨーロツパは勿論阿弗利加に於ても、我等の友軍部隊の果敢な攻撃精神と戰鬪能力が成し遂げた業績に對して充分合點がついた筈である。然も目下復たしても阿弗利加では戰鬪が蒸し返されてゐる。然し上記地域は大局から觀ても地理的には樞軸側にとつて廣漠たる大洋を隔てたアングロサクソン側よりは遙かに有利なのである。

更に今や一方に於て大西洋に米國の援助を有する英本土と他方巨大なる歐洲ブロツクとの間の

對立の下に作戰が續けられてゐる。獨伊兩國はその陸海空軍の全力を擧げてその目標とする敵英國打倒に集中してゐる狀態である。この戰鬪に際し軍事作戰と同樣にまた歐洲團結のための人員及び物資配置の方面にも凡ゆる機會を捉へてゐるのである。

併しまた世界に於ける政治的情勢のためのボルシエヴイズムの敗北は決定的な意義を有するのである。即ち三國同盟によつて結合された日獨伊の强國及びその參加諸國の優勢がソ聯の脫落によつてかくも强化されたと云ふことについて余はこれに對抗し得る如何なる同盟を見ないのである。この同盟國及びその友邦の支配圈は大體に於て北歐の岬から地中海領域にまで、大西洋沿岸からソ聯の奧地に至るまでの全歐洲領域に擴張されたのである。また敵が存在する限り北阿弗利加領域及び西亞に於てもまたこの政治的軍事的壓力を發動するに躊躇しないのである。東亞に於ては强國日本がその廣汎なる發展の盟主として嚴然として存在し、世界の如何なる國家と雖も日本が當然有すべき支配的位置に對し反駁することは出來ないのである。

これらの國家に對立して英國があり、その先端にチヤーチル氏が立つてゐる何人も英國に於て疑ひもなく英國の對獨宣戰の主犯者として考へられてゐるこの人物の心底を知る者はない。若しもチヤーチル氏が今次の戰爭に於て最早勝利の見込みなく寧ろ現在の英國はゲームに負けたとい

ふことを今日すでに心魂に徹してゐないとしたならばそれは全く驚きに堪えないことである。彼は勿論自國民の前ではこの事實を認め得ないしまた最後に尙ほ所謂同盟國である米國合衆國の援助に彼の希望をつないでゐるのである。

閣下並に諸君！　ルーズヴェルト大統領は數年來ドイツ及びその他のあらゆる可能な國々に對して戰鬪を以て脅かして來た。しかし最近アメリカ合衆國の戰爭煽動者たちがドイツに對して執るに至つた態度が、ますます露骨の度を加へるに及んでは、われわれとしても、この問題について全然拱手傍觀的態度を以て臨む何らの理由もない。

獨逸の國民はその全歷史に於てアメリカ國民に對し怨恨を抱いた事もなくまた憎惡を持つた事もなかつた。それにも拘らずルーズヴェルト氏は、謀略、歪曲、誹謗の限りを盡してその國土と國民を對獨戰爭に驅りたてやうとしてゐる。

ドイツはこの發展を欲し乍らこの場合アメリカの國民が語つたのでもなければ、又語り得たわけでもなく、單にルーズヴェルトが勝手に行つた政策に過ぎないといふ事實が確證されるに及んで總統はこの間の事情を考慮し、又これに應じてドイツ國政府は、初めてルーズヴェルトの敵性を取り上げて問題とするに至つたのである。ルーズヴェルト大統領はかうした態度に鑑み、余は

茲に次の事實を確認したい。

アメリカ合衆國が我々の敵國に軍需品を供結するか又どの程度に供給するか更に又アメリカは參戰するか——之等の問題は今次戰爭の結果卽ち樞軸國及びその同盟國の勝利には何ら影響を與へないであらう。

神の攝理により何千平方キロメーターの大洋を隔てて存在する國々の諸國民が何故相互に全力を擧げて戰ひ合はねばならぬかといふ事は兎に角我々の自問せねばならぬ事である。現下の情勢は一方には國家存在に新らしい社會的秩序及び物資の公正な分配を受けんと鬪ふ諸國民があり、他方搾取者の國際猶太金權的世界の利益がルーズヴェルト氏と共に先頭に立つてゐたこの兩者が互に對立してゐるといふ事實に思ひ當つてこそ現今の情勢は理解し得られるのである。

ルーズヴエルト氏は然も猶彼並びに猶太的同志の利用し得らるる凡ゆる宣傳機關を總動員して國家社會主義ドイツ及びフアツシズム伊太利に對する嫌惡心を煽り立てたのである。如何なる手段をも選ばず時にはドイツを、又時には伊太利或は日本を交互に晝夜を通じ誹謗してゐる。其の言ふところは「ドイツは全世界の宗教を壓迫せんと欲してゐる。」とか「ヒトラーは南米を征服せんとするのである。又アメリカ合衆國を壓服せんと欲してゐる。」とか更に「ヒトラーは世界を分

割せんとするものだ」とか凡ゆる事をアメリカ國民に告げるのである。然し勿論之等は凡て眞に馬鹿げた囈語であるとはよく解つてゐる。ドイツの生活は數世紀に亙つて東部に發展するであらうがこのドイツは第一にはアメリカに對抗して進出せんとの原因を何ら有さず、又隨つて毫もその意向を有しないのは人の知るところである。

第二にはドイツがアメリカを攻擊すると云ふ考は軍事的に觀ても全く妄想的馬鹿げたことである。アメリカの軍部はこれを充分知つてゐるが尙ほ且つアメリカの戰爭煽動者共が絕えずドイツの攻擊が可能であると論じてゐるのは實にこの標語が自己の意嚮をカムフラージするために必要だからである。所謂「コソ泥に備へよ」といふ式でアードルフ・ヒツトラーが世界征服の諸計畫を有すると揑造してゐるのである。これは實にこんな事を叫んでアメリカを通じてユダヤ金權主義の支配力をこれを振ひ落した凡ての國々に於ても確實に擴めんとするものである。この原因を除外してもアメリカは新興ドイツ、イタリー又日本に對抗する戰爭を挑發してゐるのである。

米國は中立違反を行ふために地圖や公文書を揑造し中立を宣言した。武器を供給し、まづ現金それから自國船で輸送することを再び廢止するために「現金自國船輸送條項を作り出したのである。ボルシエヴイズムを仇敵と呼び乍ら數週間後にはこれと提携するに至つたのである。最後に

發砲命令を出し而してドイツの船舶に發砲し、而もドイツの船舶が防禦すると憤激するやうた樣子をするのである。

米國民の健全なる常識がどの位長く彼らの政府のかゝる滅亡政策を甘受するかを實際問はなければならない。事實理性ある米國人はこの政策に對し抗議してゐるかの如き樣子が種々と現はれてゐた。最近の議會に於ける投票によつて見ても現在の米國政府の戰爭政策は米國民の一小部分により支持されてゐるに過ぎない。と云ふのは若し外國の政府が彼らの犯罪的な見解、彼等の傲慢、また彼等の憎惡對しそれが凡て自然法に反し且つ二つの大洋の彼方にある地球の他の部分の一切の事柄に干渉しまたこれを精神的に物質的に領有しようとすることはモンロー大統領の賢明な識見に反すると云ふときは、それは米國民の生活意志の眞實な表現であり得ないからである。また第一に米國民は一切の資源を自國に於て所有し第二にそれが決して脅威されず他國民も彼らを決して精神的に指導したり、況んやそれを支配し得ないことを全く正確に自覺してゐるからである。アメリカはアメリカ人に、歐羅巴は歐羅巴人にと云ふのは極めて賢明な公式である。何人も世界的な大破局を醸し出すことなくして、永久にこれを度外視することが出來ない。

もしもアメリカの國民が、かくの如きルーズヴェルト大統領の不自然な目標追求の犧牲として

不幸に頽落し、他の世界、卽ちヨーロッパに對する戰爭に突き入れられるとすれば、我々はただお氣の毒と申し上げる外はない。而してただ次の一事だけを茲に確認したい。

卽ちアメリカ合衆國と歐羅巴並びに東亞との間に戰爭が勃發したとすれば、この戰爭及びその結果に對する責任は、一にルーズヴエルト大統領の負ふべきものなりといふことは、今日すでに歷史の前に嚴として動かすべからざるところである。一體如何なる理由で、ルーズヴエルトがかゝる政策を執り、その國民を望まざる戰爭に驅り立てゝゐるのであるか、われわれは疑問とせざるを得ない。アメリカの國民自身にとつてはルーズヴエルト大統領のこの政策は、いつか精神的にも物質的にも、高價なものになるであらう。何故なら、

一、アメリカの納稅者がイギリスの對獨戰爭の主たる負擔を共に引き受けねばならなくなるのであらうことは明白である。

周知の如くイギリス並にその他の諸國は、今日も尙、凡そ百五十億弗に達する前世界戰爭當時の負債を擁し、平和時にもその利子さへ支拂ふことが出來なかつた。況んや賠償においてをやである。そして舊債を拂ふことも出來なかつた位だから、新しい負債の如きは全く支拂ふ能力がないことは明瞭である。隨つてアメリカが今日何れかの國に提供する銃、大砲、飛行機等は、何れも全

部アメリカ納税者の負擔となる外はない。アメリカの品物が何らの代價も受けることなく繼續的に國外に出て行くのであるから、比較的短期間のうちにこの國は、猛烈な經濟恐慌に見舞はれずに濟む筈でない。これは以前の經驗に鑑みても明かである。余の見るところでは、一九二九年のアメリカ恐慌の如きは、現在ルーズヴエルトの遂行してゐる戰爭政策、經濟政策の結果として生ずるであらう破局に比ぶれば、實に兒戲に等しいものであつた。ルーズヴエルトは、民主々義の擁護のために闘ふものと主張してゐる。しかし氏にしても眞實にこれを望むならば、戰爭を求めたり、ボルシエヴイキのロシヤと組んだりなどしなかつたのであらう。しかし彼は戰爭を求め、ボルシエヴイキと組んだのであるから、彼及びユダヤ人ブレイン・トラストの絕對的覇權を確立しやうとする自分の意志を露呈してしまつたことになる。而してルーズヴエルト氏は、アメリカの息子たちの血を犧牲にしやうと用意してゐるのである。

二、ルーズヴエルトは人類最大の敵、ボルシエヴイズムと結んだ。その結果は、以前他の國々で見られたと全く同樣に、アメリカにも自動的に猛烈な社會的な對立となつて表はれるであらう。われわれの確信するところによれば、ルーズヴエルト大統領はソヴエート・ロシヤとの提携によつて、事實最も蟶蹙すべき一の社會的破局を醸し出した。

この破局こそはアメリカの國民を震撼させ數十年前の狀態に投げ返す結果を招來するに至るであらう。

チャーチル氏はこの政策を、自分の創意によるか、將又ルーズヴェルト大統領の影響によるかは別として、充分の確信を以て支持してゐる。勿論主たる犯人はルーズヴェルト氏であるが、これは主として指導する者は英國であらう。何故ならば英國の將來は正に慘膽たるものがあるからである。

余は今次の戰爭に於ける英國の狀態とその見通しを次の如く概推して述べたいと思ふ。

一、三國同盟に結合されてゐる國家及びその同盟國に對し陸並に海上に於ても勝利を得る事が出來なかつた。必然の結果としてある動機からその援助方法を考へなければならないがこの間我々の可能性は增大されつつある。

二、チャーチルの挑戰した英本土及び歐洲の間に於ける空軍の戰ひに於ても英國に利はない。英土の地理的狀態及びその經濟狀態は歐洲大陸に對する空軍の集中攻擊のためには反對に無限に多くの惡條件を有してゐる。

三、日本を除く樞軸國自身はソ聯の敗北の使用出來る經濟及び軍需能力を英米のそれよりも無

限大に獲得した。

四、英國は今後の戰爭を繼續する事によつて次々に地位を失ひ且つ必然的にその世界國家は愈愈外國依存の度を强めて行つた。

五、獨逸及び同盟軍の主力が英本土を海空陸より集中攻擊を爲す事によつて英本土は荒廢し且つ何れは崩壞に瀕するであらう。

所謂ドイツの和平の試みに關する英國の主張に對しては余は左の如く聲明する、即ち「ドイツ國會におけるヒトラー總統の數次にわたる對英和平提案、特にフランス敗北後の和平提案が英國の鐵面皮な拒絕に遭つて以來ドイツはそれ以上和平を提案しなかつた。ドイツは現在も將來も和平提案をなす意向を斷じて有してゐない」と、

次に余は英國の所謂宣傳標語「大獨逸に於ける革命」に對し見解を述べたい。チャーチル氏は以前にも現在も、又今後も惡質の心理學者である。彼はまた屢々誤つた判斷を下し生涯の大失態を招き而もそれを首相になつて迄も繰り返してゐるといはれてゐる。或る種の民主々義者には特に人氣を博してゐる樣であるが、併し彼は政治家として彼の祖國の運命をかくの如き近視眼的な希望に托してゐる事丈けで既に稀に見る愚者といふべきである。史上最大の進擊を敢行し、その

同盟國及び友邦と共に歐洲を支配し遂にその生命圏を確保し、それによつて經濟的に外部の世界から對立し數世紀後に大獨逸國建設の戰爭を經驗した獨逸國民は今や正當なる革命を爲さねばならない。これはまた伊太利に就ても同樣である。卽ち不世出なムツソリーニ首相の出現とそのファシズム運動は全國民に感謝されてゐるのである。

併し假令この一切が反對になり、ドイツが勝利に次ぐ勝利を獲得する代りに敗北を重ねたとしてもただ一のことか確言出來る。卽ち國民社會主義ドイツは決して降伏されないと云ふことである。

最近英國民から英國の最大の軍事專門家として持囃されてゐるチヤーチル氏は自動車、戰車及び急降下爆擊機の現在では非武裝地帶に於ける暴動を瞬く間に斷壓されると云ふことを正當に知るべきである。併しチヤーチルは又これに就ても正しい助言や情報を受けてゐない。併しそれは決して決定的なものではない。歐洲の諸國民は暴動を起すことを毫も欲してゐないのである。勿論ただ一つのことは明らかである。卽ちそれは英國の歐洲政策が戰爭によつて擊碎された後に我々の歐洲大陸を新しく建設することは今日明白と完成され得ることではないと云ふことである。この際は陣痛を伴はざるを得ない。我々は各所に變轉して後始めて新しい境遇に順應せねばなら

ぬ。

従つて今後猶ほ幾多議論折衝の餘地はあるにしても次の一點に關する限りでは全歐洲人として異論を差し挾む者はない筈である。卽ち英國は歐羅巴に於て將來最早全然よらむ可きでないと云ふ事である。とも角英國はヨーロッパに於て橫暴の限りをつくして來たのである。一國を他國に對して利用しあらん限りの策謀を逞しうし、再三ならず戰爭の張本人となり、然も他國に血を流さしめて戰爭を遂行させて來た。

これは今日三才の兒童でも知悉してゐるだからこそヨーロッパは爾今永久に英側政策と緣を切らうとしてゐるのだ。フランスでさへ此の意味で今やヨーロッパ良心の胎動を見てゐるのではないか。

英國にとり之を最後とする本次戰爭は本大陸諸國に幾多悲慘事を齎らしたが、ヨーロッパ居住者の思考を改變すること平時數年に比し遙かに速かなるものであつた。偶々利己的の理由よりして今猶ほこれを悟らず乃至又これを悟り乍ら口に出さぬ者があるとしてもヨーロッパ民族は結束せりといふ事實だけは否定し去る譯には行かないであらう。それでもまだ左右を決し得ない者があるとしたら、それは英國の對ソ反獨同盟が此の層に迄働きかけて眼を開したからに違ひない。

英國が今日何にも增して望んでゐるのが舊ヨーロッパをボルシエヴィズム的慘禍の裡に沒落せしめる事で自國は今までの本土上に在つて暫く息を拔き、あはよくば何時か一度は再び歐大陸を東部へと使嗾しようといつたとんでもない空頼みに縋つてゐること位はヨーロッパで知らぬ者はないといつてよい。ヨーロッパは今や結束して我々は愈々これから高潮した劇を體驗せんとしてゐるところなのである。その大半は英國の舊同盟國か乃至英國の爲今次反獨戰爭にそゝのかされ悲境に突き落とされたヨーロッパ諸國が次ぎ次ぎに英國より離反し樞軸側に趨つて今やその息子達まで共同の敵たるボルシエヴィズム打倒のために提供せんとする劇を體驗せんとしてゐるのだ。今やヨーロッパは史上初めて協和の緒に就きつゝある。之れぞ洵に異常な躍進といふべきである。諸民族の纖細な本能は彼等をしていみじくも彼等前政府の計畫とは凡そ對蹠的の方向を辿らしめた。然も之等舊政府たるや目下亡命者としてロンドンでスターリンの同盟者たるチヤーチルと同じ机を圍み、今日ではその失望せる民族からさへ少しも手にされてゐないのだ。殆んどすべてのヨーロッパ諸國の息子達は現に東部戰線に在つて我大陸の生命と文化の維持に當りつゝ闘つてゐる。此の共同戰爭で流された血潮こそは過去一切の傳説にも增して重きものがあらう。玆に新しきヨーロッパは――チヤーチル氏とルーズヴエルト氏とそのユダヤ的黑幕の欲すると否とに拘ら

ず進軍する。然も泰然として傍目も振らずに。此の大陸の諸民族は軈て新しきヨーロッパを建設し、其の間、和戰を問はず一切の阻害を許すものでない。

軍事的に攻撃を許さず、經濟的に後顧の憂なくして初めて我々は平時の如く此の大陸を政治的に組織し得らるゝのである。又若し偶々爆撃機の襲ふ時あらば之に十倍の報復を與へるに吝さかなるものでない。事實今日こそヨーロッパは萬一の場合には三十年戰爭をも敢へて辭せず然もそのため大陸が危機に陥るが如き憂は毫もないのだ。我等の大陸は民族相互の一致結束を愈々堅くしヨーロッパ襲撃の愚擧を敢へてする一切の者に對して益々强力な因子となるであらう。

諸君！而して今や樞軸國及び共の友好國の指導下にある新ヨーロッパ秩序に呼應して東亞新秩序は日本及びその友好國の指導により相共に前進してゐるのである。何人と雖もこの恒久的事態の發展を阻止し得ない。この目的が達成されるまでには尙甚大な努力と犧牲が必要であらう。然し乍らユダヤ的商賣人や自國民を政治的に壓迫する者より成る國際的法律顧問の一味に對抗して新秩序を確立せんとする若い民族の爭鬪が絶對的勝利を獲得する事は疑ふ餘地がない。然るが故に神意は我々の鬪爭に既に今迄も大なる惠みを垂れ給つたのであつて今後も又我々を加護するであらう。——一つの目醒めた世界のこの新秩序に對抗する侵略者を徹底的に殲滅するまでも！

# オット東京獨逸國大使の聲明

昭和十六年十二月十二日

長年來緊密にその運命を共にし、互に堅く結ばれてゐる日、獨、伊三國は今や相共に戰ふに至つた。その地は遠く隔るにも拘らず堅く結ばれた我々三國民の今回の一致團結よりも更に密接な運命的な且つ堂々たる結合は他に例をみない。元來日本の對米戰宣布告と同時に獨逸並に伊太利の對米戰參加は既に確定してゐたのである。

今こそ我々三國民は肩を並べてアングロサクソン諸國の世界支配欲に對抗して正義の戰を遂行するものである。その共通な敵を團結して徹底的に殲滅し、歐洲並に東亞に於ける正當にして意義深き新序秩確立のため凡ゆる障碍を芟除する迄はその鋒を收めないといふ事を日、獨、伊三國は昨日嚴肅に誓約した次第である。

長年日獨親善關係促進の前哨に立ち日本國民を具に識り、日本國民と相共に喜び、相共に悲しんだ我々はこの數日間の偉大な決斷と業績に對し誠に喜びと誇りに耐へない。

相容れぬ二つの現實の對立は今や全地球に亙つて激烈な鬪爭を惹起せしめてゐる。目的の偉大

さと正義を確信せる勉勵な國々は舊套依然たる朽ち果てた秩序に對抗して立ち上つた。卽ち決死の勇氣と絕對的滅私奉公が富と物資に對抗してゐるのであり、又、生活力と將來の喜びが過去の不正の果實に執念深く固執するものと對立してゐるのである。

我々の敵が汲々として企て煽動し又準備した戰爭は今や世界大戰となつた。敵はこの世界戰爭をその尨大な地域の隅から隅まで同時に且つ同じ重壓と徹底さを以て遂行してゐる。

自ら放火したこの世界火災を現に操縱せんとする企てが彼等の手から滑り落ちた事については我々は先づ日、獨、伊戰線の微動だもせぬ鞏固性に感謝するものである。實に我々三國民もその政府も今次の戰爭を欲しなかつた。この戰爭たるや少數の無責任極まる所謂國民誘惑者によりその國民の意志並に運命にさへ反し最も輕卒に我等に强制されたものである。然し乍ら我々三國民及びその政府が戰爭を遂行し、又如何に戰ひ且つ勝ち得るかといふ事については「エーブン・エマール」（この地より獨軍マヂノ線を突破す）や眞珠灣の名が烱々たる證左たるを失はない。日本の決死の荒鷲は數分間で英戰艦「プリンス・オブ・ウエールス」換言すれば尨大な資材を惜氣もなく浪費して出來上つたこの最新式且つ英國自慢の產物卽ちアングロサクソンによる海洋支配の越權のシンボルを擊滅し赫々たる大勝を獲得したがこれと同樣に邁進せる若い諸國民は飽くこ

とを知らぬ不正極まる勢力と物資の堆積する一の世界を根こそぎ打破するであらう。

昭和十六年十二月廿七日印刷
昭和十七年一月一日發行

獨逸對米宣言

【定價 四拾錢】

編纂 獨逸研究所
前田淳一
山本浩

發行人 新東亞協會
代表者 有村俊夫
東京市京橋區西八丁堀三ノ二
會員番號一一二三二七

印刷所 東水印刷所
東區市麹町區麹町三ノ一二ノ一

發行所 新東亞協會
東京市京橋區西八丁堀三ノ二
電話京橋(56)一六〇三

配給所 日本出版配給株式會社
東京市神田橋淡路町二ノ九